



アブラハムの生涯

Vol. 93, No.1

2017年1月-3月

目次

アブラハムの召し	5
アブラハムの信仰	10
約束の子孫	15
アブラハムの二人の息子	20
真のアブラハムの子ら	26
永遠の契約	31
約束の契約	36
恵みの契約	41
アブラハムのわざ	47
アブラハムの救い主	52
アブラハムの忍耐	57
罪人のために嘆願する	62
アブラハムの嗣業	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学 校 部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.93, No.1

編集&発行：
S D A改革運動日本ミッション

〒 368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 40-1045

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イ ラ ス ト : Good Salt on
the front cover and Map
Resources on pp. 4, 46, 72;
Adobe Stock on pp. 25, 72.

まえがき

今日、わたしたちが世の中を見わたしますと、至る所で大災害が起こっているのを見ます。暴力、流血、自然災害、そして未曾有の罪惡。これらすべてのことはわたしたちの主イエスの再臨が間近であることを思い起こさせます。これらの挑戦に答え、天の雲に乗ってこられる主をお迎えする準備をするためには、強い信仰、すなわちアブラハムの信仰を持たなければなりません。

「わたしたちの救い主が間もなく来臨することを待ち望んでいると公言する人々はアブラハムの信仰、すなわち何らかの犠牲を要求するがゆえに価値のある信仰、愛によって働き魂を清める信仰を持つべきである。アブラハムの模範が、世の終わりに臨んでいるわたしたちのために残されている。わたしたちは神がわたしたちに対して真剣であり、またあなどられるべきではないことを信じなければならない。このお方が言われたことは本気であり、わたしたちに絶対的な信仰と自発的な従順を要求しておられる。そのとき、このお方はご自分の光をわたしたちの周囲に輝かせ、わたしたちは主にあつて完全な光となるのである」(ザイブ・オブ・タイム 1875 年 4 月 1 日)。

今期わたしたちはアブラハムの生涯を研究していきます。この神の人は多くの信仰のテストに合格しました。一つ一つにおいて、アブラハムは神と、神が自分に与えてくださった約束一彼が「多くの国民の父」となるという約束—を信じる信頼を示す機会を与えられたのでした。時に彼の信仰は、神のご計画を自分自身の時と方法によって成就しようとして揺らぎました。それにもかかわらず、神は彼の忠実さを試し、定められた時に約束の長男がアブラハムに生まれたのでした。しかし、神はアブラハムのためにご自分の最大のテストをとっておられました。それは彼が若くて強い時ではなく、彼が老人となつてからでした。

「アブラハムは老年に厳しくテストされた。主の言葉は打ちひしがれた老人に対して恐ろしくふざわしくないように思われたが、それでも彼はその正義に疑義を挟まず、従順をためらわなかった。彼は自分が老年で弱いことや、また自分の人生の喜びである息子を犠牲にすることはできないと嘆願することもできたはずであった。彼は主にこの命令がこの息子に関して与えられた約束と矛盾することを思い起こさせることもできたはずであった。しかし、アブラハムの従順はつぶやくことも責めることもしなかった。彼の神への信頼は絶対的であった」(教会への証 4 巻 253)。

「神は、神の民が試練に会うのを許される。それは、彼らが神に誠実を尽くし、服従することによって、彼ら自身が靈的に豊かになるためである。さらに、彼らの模範によって、他の人々に奨励を与えるためである。……われわれの信仰を最もきびしく鍛え、神は、あたかもわれわれを見捨てられたのかと思わせるような試練そのものが、実は、われわれがすべての重荷を主のみもとにおろして、それに代えて彼がお与えになる平和を味わうことができるように、われわれをキリストのそば近くに導くべきである。」(人類のあけぼの上巻 127, 128)

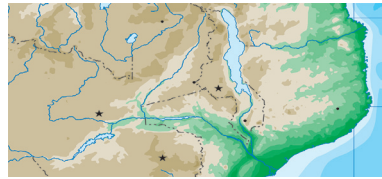
神がわたしたちにアブラハムの信仰を与えてくださいますように。またこの信仰がアブラハムのようにわたしたちに一人ひとりについて「神の友」と言われることができるような生活を送るよう導きますように。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

マラウィの本部と礼拝堂のために

マラウィ共和国は南東アフリカにある内陸の国です。かつてはニアサランドとして知られ、北西はザンビア、北東はタンザニア、そして南西と南東はモザンビークに面しています。この国はまた「アフリカの温かい心」というあだ名もついています。



マラウィは人口およそ 1600 万人で、大半はクリスチャン(82%)であるとし、そこにはローマ・カトリック、長老派教会、アングリカン、バプテスト、そしてセブンスデーアドベンチストが含まれています。相当数の少数派ではイスラム教徒 (13%) がいます。

マラウィでの働きは、2008 年に一人の伝道者がこの国を訪れようと思ったときにはじまりました。プロテスタント教会からの一組の夫婦が彼を受け入れ、宿泊先を探すために助けました。この伝道者は彼らに聖書研究をし、また預言の霊のいくらかを渡しました。夫婦は現代の真理のメッセージに非常に興味を持ち、礼拝のための場所を提供し、毎安息日出席するよう、他の人々を招きました。

この伝道者がマラウィを去ったとき、ザンビアにいるわたしたちの信徒仲間たちに、この求道者たちを助けるためにマラウィに行く人がだれかいるかどうかを調べるためお願いをしました。神の恵みにより、一人の兄弟がこの召しに応じて言いました、「わたしは神がわたしを遣わされるところへはどこへでも行く用意ができています」。彼が 2009 年にマラウィに到着すると、この兄弟はこれらの求道者たちを励まし、メッセージを宣布するためにある場所から別の場所へと行きました。今日、わたしたちのメッセージに関心を持つ魂が多く、多くの場所にいます。およそ、60 人のバプテスマを受けた教会員がおり、900 人を超える安息日学校のメンバーがいます。彼らの多くはわたしたちの諸原則を研究し、バプテスマのための準備をしています。

神の恵みにより、この国は 2013 年にミッションとして組織されました。わたしたちはまたブラジルにいるわたしたちの兄弟姉妹方が首都のリロングウェに土地を購入するための金銭を寄付してくださったことを非常に感謝しています。今マラウィにいる信徒たちは、本部と礼拝堂を立てようと計画しています。しかしながら、この国は非常に貧しいのです。わたしたちの教会員はこのプロジェクトを果たすだけの金銭がありません。このため、世界中の兄弟姉妹友人がたにお願いしている次第です。

世界総会安息日学校支部より、マラウィミッションのために

アブラハムの召し

「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。
あなたは祝福の基となるであろう。」(創世記 12:2)

「アブラハムは、迷信と異教のなかで成長したのであった。……しかし、真の信仰が絶えてしまったわけではなかった。神は常にご自分に仕える残りの民を守ってこられた。」(人類のあけぼの上巻 121)

推奨文献：人類のあけぼの上巻 121-130

日曜日

1月1日

1. 神がアブラハムを召される

- a. 神は何をするためにアブラハムを召されましたか。また彼と共にだれが行きましたか(創世記 12:1-4; 使徒行伝 7:4)。

「バベルからの離散後、偶像礼拝は、また、全世界に広くゆきわたり、主は、ついにかたくなな罪人たちが悪を行なうのを放任しておかれる一方、セムの系統のアブラハムを召して、後の時代の人々のために、神の律法を継承する者とされた。」(人類のあけぼの上巻 121)

- b. 神はなぜ直ちにアブラハムに行くようにとお命じになった場所をお告げにならなかったのですか(ヘブル 11:8)。アブラハムは神の召しに従うにあたり、どの決心をしなければなりませんでしたか(創世記 12:1; マタイ 10:34-38)。

「アブラハムの絶対(質問しない)服従は、全聖書を通じて見られる最も驚くべき信仰の例証の一つである。……アブラハムに臨んだ試練は、決して軽いものではなく、彼に要求された犠牲は、小さくはなかった。アブラハムは、故郷、親族、家庭と、堅いきずなで結ばれていた。しかし、彼は、ためらうことなく召しに従った。彼は約束の地について……聞かなかった。神がお語りになったのであるから、神のしもべは従わなければならなかった。彼にとって、この地上で最も幸福な場所は、神が彼にるようにお望みになるところであった。」(同上 122-124)

2. 約束

a. 神は初めにアブラハムにどのような約束をなさいましたか (創世記 12:2, 3)。

「神がアブラハムを召して、偶像教徒の親族に別れて、カナンの国に住むように言われたのは、地上のすべての人々に天の最上の賜物を与えるためであった。『わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう』と神は言われた (創世記 12:2)。神が世界にお与えになった真理を幾世紀にわたって擁護し、保存する民族の父となり、約束のメシヤの降臨によって、地のすべての国民を祝福する民族の父となるという召しをアブラハムが受けたことは、彼にとって大きな栄誉であった。

人々は真の神に関する知識をほとんど見失っていた。彼らの心は偶像礼拝によって暗くなっていた。『聖であって、正しく、かつ善なるものである』(ローマ 7:12)。神の戒めの代わりに、人々は、彼ら自身の残酷で利己的な心のままに行うことができる律法をとりいれようとしていた。しかし、神は彼らをあわれんで、彼らを滅ぼし去られなかった。神は教会によって神を知る機会を彼らにお与えになった。神は、神の民によってあらわされる原則が、人間のうちに神の道徳的なかたちを回復する手段になるようにご計画になった。」(国と指導者上巻 (主のぶどう畑) 1, 2)

b. 神はアブラハムと彼の子孫にどの地を約束されましたか (創世記 12:5-7; 13:14-18)。

c. アブラハムと彼の子らが幕屋に住んでいたということは、どのような意味がありますか (ヘブル 11:9, 10, 13-16)。わたしたちはどのように似た態度をとるよう召されていますか (ペテロ第二 3:11-14)。

「わたしたちはあらゆる意味で言葉通りに、クリスチャン (キリストに似た者) となるよう奮闘し、わたしたちの衣服や会話や行動が、キリストすなわち栄光の望みが内に形作られていること、またわたしたちが祝福された望み、栄光のイエスの出現を待ち望んでいることを宣布するようにしよう。わたしたちは周囲にいる人々にこの世はわたしたちの家郷なのではなく、ここでは寄留者であり旅人であることを示そう。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1852 年 6 月 10 日)

3. ロトの大きな過ち

- a. ロトはアブラハムと共に約束の地へ旅する道中、どのような誘惑に陥りましたか（創世記 13:5-11; ヨハネ第一 2:16, 17）。

「パレスチナ全土のなかで、ヨルダンの谷は、最も地味が豊かな地域で、見るものにかつての楽園を思わせた。そして、それは、彼らが少し前に出てきたばかりの、豊かなナイル川沿岸の平野の美しさと肥沃さに匹敵していた。……ロトは、世的利益の幻に目がくらみ、〔豊かで美しい都会のにぎやかな市場〕で当面する道徳的、霊的害悪を見落としていた。低地の住民は、「主に対して、はなはだしい罪びとであった」（創世記 13:13）。しかし、彼はそのことを知らなかった。たとえ、それを知ってもあまり重きをおかなかった。「ロトはヨルダンの低地をことごとく選びとって」「天幕をソドムに移した」（創世記 13:11, 12）。ロトは、この利己的選択の恐ろしい結果については、なんの予測もしなかった。」（人類のあけぼの上巻 132, 133）

- b. 目の欲を通して、悪魔は何を成し遂げようとしていますか（マルコ 4:18, 19; マタイ 4:8-10）。

「もしこの世の主張や煩いが、わたしたちのすべての時間と注意を奪うのが許されるなら、わたしたちの霊的な力は弱められ死滅してしまう。なぜなら、それが働かせられないからである。」（この日を神と共に 87）

- c. わたしたちが自分の幕屋を張るために選ぶ場所が、どのようにわたしたちとわたしたちの家族の霊的な命を破滅させるかもしれませんか（創世記 13:12, 13; 19:1, 12-16）。

「今日も……多くの者が住宅を選ぶ場合に、彼らと家族をとりまく道徳的、社会的影響よりは、物質的利益のほうを重くみる。彼らは、美しく肥沃な土地を選ぶ。または、もつと繁栄を確保することを望んで、繁華な都市に移転する。しかし、子供たちは誘惑にかこまれる。そして、彼らは敬虔の念を養い、正しい品性を形成するには不利な友人を持つ場合が多い。低い道德観念、不信仰、宗教に関する無関心などのふんい気は、親の感化を中和させる傾向がある。……多くの者は、無神論者や未信者と親しくなり、神の敵と運命をともにする。」（人類のあけぼの上巻 177, 178）

4. 罪深い環境

- a. わたしたちはロトの妻の経験から、何を学ぶべきですか（創世記 19:26; ルカ 17:28-33）。

「〔ロトの妻〕は、持ち物や子供たちまでが神の刑罰にのまれてしまうので、神に反逆の精神をいだいた。……

あわれみの招きは、すべてに与えられた。そして、友人が救い主の愛の訴えを拒むからといって、われわれも顔をそむけるのであろうか。魂の贖罪は尊いことである。キリストは、われわれの救いのために無限の代価を払われた。そして、この大犠牲の価値、また魂の価値を認めるものは、他の人々があなどるからといって、神の恵みの申し出を軽んじないのである。」（人類のあけぼの上巻 171, 172）

- b. ロトの娘たちはソドムから逃れたとはいえ、どのようにその道徳力が墮落していましたか（創世記 19:30-38; レビ記 18:6, 7）。

「ロトは山にはいり、洞穴に住んだ。彼は、家族を罪惡の町の感化にさらして、手に入れたすべての物を失ってしまった。しかし、ソドムののろいはここまで追ってきた。彼の娘たちの罪深い行為は、罪惡の町の有害な交わりの結果であった。ソドムの道徳的腐敗は、彼女たちの品性に織り込まれていて、善惡を区別することができなくなっていた。ロトの唯一の子孫であるモアブ人とアンモン人は、不道徳な偶像礼拝者の種族であって、神に対する反抗者であ……った。」（同上 176）

- c. この終わりの時代に、わたしたちが約束の地へ旅するとき、自分たちの幕屋を張るのに最も安全な場所はどこですか。それはなぜですか（創世記 2:7, 8; ユダ 5-7）。

「神がわが教会の人々に話す力を与えてくださるかぎり、わたしは親であるかたがたに都会を離れて、土を耕し、自然という書物から純潔と単純さを学ぶことのできるいなかにか家を持つことを訴え続ける。自然界という書物は主の無言の説教者であって、靈的真理を教えるためにわたしたちに与えられているものである。それはわたしたちに神の愛を語り、偉大な芸術家の知恵を物語っている。」（アドベンスト・ホーム 153）

5. わたしたちの召しを確かなものとする

- a. わたしたちはアブラハムが召されたように、約束の地へ召されてきましたが、何に留意しているべきですか（ペテロ第二 1:10, 11; マタイ 22:14）。

「だれも永遠の命を失う必要はない。日ごとに天の教師から学ぶことを選ぶすべての人は、自分の召しと選びを確かにするのである。自らの心を神のみ前にへりくだらせ、正しく知ることが永遠の命であるお方を知ることが切に求めようではないか。……

わたしたちは何物も神と天から自分たちを分離させるものを許すわけにはいかない。この世においてわたしたちは神性にあずかる者とならなければならない。兄弟姉妹方、あなたは生きるために一つの命を持っているだけである。それが徳の命となり、神のうちにキリストと共に隠されている命となるように！」（天国で 29）

- b. だれだけが約束の地に着くことができますか（黙示録 17:14; ヘブル 3:12-14）。

「悪を克服する働きは信仰を通してなされるのである。戦場へ出ていく人々は、自分たちが全身神の武具をまとうていなければならないことに気づくであろう。信仰の盾が彼らの防御となり、彼らが勝利者以上の者となることを可能とする。これ以外のものはない。成し遂げず、ただこれだけ、すなわち万軍の主を信じる信仰とこのお方の命令への従順だけが成し遂げるのである。最後の争闘においては、他のすべての設備を備えた甚大な軍勢は何も成し遂げることができないであろう。信仰がなくては、天使の万軍は助けることができなかった。生きた信仰だけが彼らに無敵とし、彼らが悪の日に確固と不動に、自分たちの最初の確信を最後までしっかりとつかんで立つことができるようにするのである。」（両親、教師、そして生徒への勧告 182, 183）

個人的な復習問題

1. わたしたちがキリストを愛する以上に、わたしたちの家族を愛するとはどのような意味ですか。
2. わたしたちが今日寄留者であり旅人であるかどうか、どのように述べることができますか。
3. わたしたちが生活するために選ぶ場所が、どのように自分たちの運命に影響を与えうるかを説明しなさい。
4. 罪深い諸都市の近くで生活する危険性は何ですか。
5. なぜ召された者すべてが選ばれた者ではないのですか。

アブラハムの信仰

「〔アブラハム〕は主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。」(創世記 15:6)

「わたしたちの魂は信じるために訓練し、神のみ言葉により頼むように教えることができる。」(わたしたちの高い召し 119)

推奨文献： 教会への証 6 巻 91-99

日曜日 1月8日

1. アブラハムの最大の懸念

a. 神の約束に関して、アブラハムの最大の懸念は何でしたか(創世記 12:7; 15:1-3)。

「アブラハムには子供がなかったので、彼は最初、信頼のできるしもべであるエリエゼルを養子にして、相続人にしようと思っていた。しかし神は、アブラハムのしもべエリエゼルを相続人としてはならない、お前の実子をあたえとお告げになった。」(生き残る人々 93)

b. 神はご自分がその約束をお忘れになっていないことを、再びどのようにアブラハムに補償なさいましたか(創世記 15:4, 5; イザヤ 55:10, 11)。

「神はわたしたちが大いなる祝福を受けることを願っておられる。このお方のみ約束ははっきりと述べられているため、不確かになる理由はない。このお方はわたしたちがみ言葉通りにご自分を信じることを願っておられる。ときに、わたしたちは大いに困惑して、どうしてよいかわからなくなる。しかし、そのような時に、わたしたちが聖書をとってこのお方がわたしたちに与えてくださったメッセージを読むことはわたしたちの特権である。それからひざまずいてこのお方にわたしたちを助けてくださるよう求めるのである。何度も繰り返して、このお方はご自分が祈りを聞いて祈りに答える神であられる証拠を与えてこられた。このお方はわたしたちが助けを受けると期待している量をはるかに超えて約束を果たしてくださるのである。……

わたしたちがどこにいても、わたしたちは自分の主であり、また主人であられるお方の弟子として、自分たちの信仰の錨を神の約束におろす義務の下にある。」(ウォッチマン 1914 年 5 月 1 日)

2. 完全に確信させられる

- a. アブラハムはなぜ子供に関する神の約束を信じようと決心したのですか(創世記 15:6 (上句) ; ローマ 4:20, 21)。

「愛によって働き、魂を清める信仰は衝動の問題ではない。それはこのお方が言われたことは実行することがおできになると固く信じて、危険を承知で神の約束に基づいて踏み出すのである。」(わたしたちの高い召し 119)

「〔ピリピ 4:4-7 引用〕。約束されたお方は十分にそれを果たすことができ、言われたことをすべて成す力において無限であることをわたしたちが完全に信じない限り、約束自体には何の価値もない。」(この日を神と共に 156)

- b. 神の約束を信じることについて、彼の報いは何でしたか(創世記 15:6(下句) ; ローマ 4:22)。

「罪人がキリストを信じる瞬間、彼は神の御目に無罪として立つ。なぜなら、キリストの義が彼のものだからである。キリストの完全な従順が彼に着せられる。しかし、彼は神聖な力と協力し、罪を征服するための自分の人間としての努力を払い、キリストのうちに完全な状態で立たなければならない。」(クリスチャン教育の基礎 429, 430)

「わたしたちは神により頼んで安んじることができる。それは自分自身の功績のゆえではなく、キリストの義がわたしたちに着せられるゆえである。わたしたちは自己から目を離し、罪を犯されなかったしみのない神の小羊を見なければならない。そして信仰のうちにこのお方を眺めることによって、わたしたちはこのお方と似た者になるのである。」(福音宣伝者 (1892) 427)

- c. 信仰はいつ本当に働かされますか (ヘブル 11:1; ハバクク 2:3)。

「信仰のうちにとどまっているということは、感情と利己的な願望をわきへやり、へりくだって主と共に歩み、このお方のみ約束を自分のものとすることであり、また神があなたの品性の聖化によって、ご自身の計画と目的をあなたの心と生涯のうちに実行してくださることを信じつつ、それらをあらゆる状況において適用することである。それは神の忠実さに全くより頼み、絶対的に信頼することである。もしこうした道を歩むなら、他の人々は生活と品性に御霊の特別な実が現れるのを見るようになる。」(クリスチャン教育の基礎 341, 342)

3. 神は不信心な者を義とされる

- a. アブラハムは義認を必要とする罪人であったことを何が示していますか（ローマ 3:9-12, 23; 創世記 12:11-20）。

「アブラハムは、エジプトに滞在していた間に、彼がまだ人間的に弱く、不完全であるという証拠をあらわした。彼は、サラが妻であることを隠して、神の守護に対する不信を示し、これまで彼の生涯において何度となくりっぱに示されたあの大きな信仰と勇気を欠いたのである。」（人類のあけぼの上巻 128, 129）

- b. 聖書は神のみ前におけるアブラハムの義認について何と述べていますか（ローマ 4:1-8; 3:28）。

「わたしたちが神に受け入れられるのはただこのお方の愛する御子を通してのみ確実である。そしてよい行いはこのお方の罪を許す愛の働きの結果にすぎない。それらはわたしたちの功績ではなく、わたしたちには自分の魂の救いにおいて役割を果たしたと主張できるようなよい行いとして認められるようなものは何もない。救いは信じる者への神の無償の賜物であり、キリストのためにのみ彼に与えられるのである。悩む魂はキリストを信じる信仰を通して平安を見出すことができる。そして彼の平安は自分の信仰と信頼に比例するのである。彼は自分のよい行いを自分の魂の救いのために申し立てることはできない。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1122）

「キリストは罪びとを救うためにこの世においでになったのだということを覚えなさい。自分自身を神に推薦するようなものは何もない。わたしたちがいつも訴えることのできる願いは、キリストのあがないの力を必要としている自分の完全に無力な状態である。わたしたちは、自己信頼の念をいっさい捨てて、カルバリーの十字架をながめることができる。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 40）

- c. 不信心な者が心を尽くして神を信じることを選ぶとき、その人に何が起こりますか（ローマ 6:17, 18; 10:9, 10; 1:17）。

「わたしたちがイエスを信じて自らを神に明け渡す瞬間、キリストの義を得るのである。わたしたちは自分たちが罪から贖われたことを悟り、わたしたちの自由を買うために払われたこのお方の犠牲を感謝する。」（原稿リリース 5 巻 34）

4. 改心のしるし

- a. 自分の内なる変化を示すどのような外面の行動を、アブラハムは実行しましたか（創世記 17:10, 11; ローマ 4:11）。

「割礼は、アブラハムとその子孫が、自分たちを神の奉仕にささげて偶像礼拝者から離れ、そして、神が彼らを神の特別な宝としてお受けになったことのしるしとして、守るべきものであった。彼らは、この儀式を行なうことにより、アブラハムに与えられた契約の条件を彼らの側で成就することを誓うのであった。彼らは、異邦人と結婚してはならなかった。なぜなら、そうすることによって、彼らは、神とその清い律法に対する尊敬を失い、他の国々の罪の習慣に誘惑され、偶像礼拝に陥るからである。」（人類のあけぼの上巻 140）

- b. アブラハムが割礼を受ける前に義と認められたことを理解することは、なぜ重要不可欠のですか（ローマ 4:8-12; 2:28, 29）。

「義は律法への従順である。律法は義を要求し、罪人は律法に対してこの負債を負っている。しかし、彼は義を支払うことができない。彼が義を得る唯一の方法は信仰を通してである。信仰によって、彼は神へキリストの功績を持ていくことができる。そして主はご自分の御子の従順を罪人の勘定に置かれるのである。キリストの義は人の失敗の代わりに受け入れられる。そして神は悔いて信じる魂を受け入れ、許し、義と認め、彼をあたかも義人であるかのように扱われ、ご自分の御子を愛されるように、彼を愛されるのである。……

多くの人は自分で天へ上らなければならないと、すなわち神の恩寵を得るに値する何かをしなければならぬと考える結果、正しい道を見失っている。彼らは助けを得ずに自分自身の努力によって自らをより良くしようと努めている。これは決して成し遂げられるものではない。キリストはわたしたちの犠牲として死なれ、わたしたちの模範として生き、わたしたちの偉大な大祭司となることによって、道を開いてくださったのである。このお方は『わたしは道であり、真理であり、命である』と宣言される（ヨハネ 14:6）。もしわたしたち自身の何らかの努力によって、一步でもはしごの段を進むことができるのであれば、キリストの言葉は真実でないことになる。しかし、わたしたちがキリストを受け入れるとき、わたしたちが命の道に在ること、キリストがわたしたちの道であられること、そしてわたしたちが天へ導く真の道を歩んでいる証拠の実として、良い行ないが現れるようになるのである。」（信仰と行い 101, 102）

5. 内に割礼を受ける

- a. わたしたちが水でバプテスマ（新約における割礼に代わる行為）を受ける前に、まず内側に何が起こらなければなりませんか（ヨハネ 3:5-8；コロサイ 2:10-13）。

「新しい生涯に入るすべての人は、自分のバプテスマの前に、主が二心のない愛情を要求しておられることを理解すべきである。……結ぶ実が、木の性質を証する。良い木は悪い実を結ぶことはできない。……真理への徹底的な改心が必要である。」（伝道 308）

「キリストに結合しているすべての魂は、自分の周囲にいるすべての人に対する生きた伝道者となるのである。」（同上 319）

- b. 救われるために、ユダヤ人が割礼により頼んだように、ただ外面的なバプテスマの行為のみにより頼んでいるクリスチャンはどうなりますか（ローマ 10:1-3；マタイ 23:25-28）。

「あなたが教会につながっていること、あなたの兄弟たちがあなたをどう考えているかは、あなたがキリストを信じない限り何の役にも立たない。このお方について信じるだけでは十分ではない。あなたはこのお方を信じなければならない。あなたは完全にこのお方の救う恵みにより頼まなければならない。」（教会への証 5 巻 49）

「主はわたしたちすべての者のためになすべき働きを持っておられる。そしてもし真理が心の中に根ざすのでなければ、もし品性の生来の特質が聖霊によって変えられていないのであれば、わたしたちは決してイエス・キリストの共労者となることはできない。自己は絶えず現れ、キリストのご品性がわたしたちの生活の中に表されることはない。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 969）

個人的な復習問題

1. わたしたちはどのように神のみ約束を信じる確信を持つことができますか。
2. 神のみ言葉に確信させられるとはどういう意味ですか。
3. わたしたちが神に屈服するとき、どの恵み深い祝福がわたしたちのものとなりますか。
4. 割礼は何を象徴しますか。
5. 内側のバプテスマと外側のバプテスマのどちらがもっと重要ですか。

約束の子孫

「さて、約束は、アブラハムと彼の子孫とに対してなされたのである。それは、多数をさして『子孫たちとに』と言わずに、ひとりをさして『あなたの子孫とに』と言っている。これは、キリストのことである。」(ガラテヤ 3:16)

「アブラハムと彼の子孫への賜物は、カナン之地だけでなく、地球全体を含むものであった。」(人類のあけぼの上巻 179)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 150-162

日曜日 1月15日

1. 約束の子孫

- a. アブラハムは自分の相続者として一人の子孫を求めたにもかかわらず、神は彼に何人の子らをもつて祝福すると約束されましたか(創世記 13:15, 16; 15:2-5)。
- b. 使徒パウロはアブラハムになされた神の約束は非常に特別な一人の子孫、すなわちイエス・キリストを通して成就されなければならないことを、どのように明らかにしていますか(創世記 17:1-8; ガラテヤ 3:16; ヘブル 2:14-16)。

「約束のかたが現れることについて、わかりやすく明確に預言が与えられていた。アダムにはあがないの主の来臨について確証が与えられた。「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」とサタンに言われた宣告は、われわれの最初の両親にとって、キリストを通してなされるあがないの、約束であった(創世記 3:15)。

アブラハムには、彼の家系から世の救い主が生まれるという約束が与えられた。『地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう』(創世記 22:18)『それは、多数をさして「子孫たちとに」と言わずに、ひとりをさして「あなたの子孫とに」と言っている。これは、キリストのことである』(ガラテヤ 3:16)。(患難から栄光へ上巻 238)

2. 約束の子孫の誕生

- a. わたしたちはどのように、アブラハムがこれらの約束が非常に特別な子孫イエス・キリストを通してもたらされるべきことに気づいていたことがわかりますか (ヨハネ 8:56)。

「〔アブラハム〕は、罪のための天来のいけにえを見せられた。このいけにえについて、彼は、自分の経験を通して実例を与えられていた。……彼を燔祭としてさげなさい」との命令が彼に与えられた (創世記 22:2)。彼は、いけにえの祭壇に、約束の息子、一彼の望みの中心であった息子を置いた。……

アブラハムは、神について、かつて人間に与えられた最高の教訓を学んだ。死ぬ前にキリストを見たいという彼の祈りは答えられた。彼は、キリストを見た。彼は、人間が見ても生きることできる全部を見たのである。全面的に屈服することによって、彼は自分に与えられたキリストのまぼろしを理解することができた。神は罪人を永遠の滅びから救うためにひとり子をお与えになることによって、人間がなし得るよりもっと大きな、そしてもっとすばらしい犠牲を払おうとしておられるのだということを、彼は示された。」 (各時代の希望中巻 259, 260)

- b. サラは子を産む年齢を過ぎていたことを見て、アブラハムとサラは子を持つことができる前に、何を必要としていましたか (創世記 17:15-19; 18:9-14; マルコ 10:27)。

「キリストを自分の能力また自分の信頼とするすべての人に、どのような可能性と見込みがあるかを、すべての人が悟ることができればよいのにと思う。キリストと共に神のうちに隠されている命にはいつでも逃れ場がある。彼は『わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる』と言うことができる (ピリピ 4:13)。」 (田舎の生活 28)

- c. どのような方法において、奇跡的なイサクの誕生は、約束の子孫、イエス・キリストの奇跡的な誕生を象徴していましたか (イザヤ 7:14; マタイ 1:18-23)。

「ザカリヤに息子が生れることによって、アブラハムの子の誕生やマリヤの子の場合と同じように、とうとい霊的な真理、すなわちわれわれが学ぶのに手間どり、また学んでもすぐ忘れがちな真理が教えられるのであった。われわれは自分自身では何もよいことをすることができない。しかしわれわれのできないことが、神の力によって、すなおに信ずる魂のうちになされるのである。約束の子が与えられたのは信仰によってであった。霊的生命が生まれ、われわれが義のわざをすることができるのは信仰によってである。」 (各時代の希望上巻 97)

3. 約束の子孫の死

- a. 神がどのように、イサクの犠牲を通して、約束の子孫イエス・キリストの死を予告しておられたかを述べなさい（創世記 22:1-3, 9-13; ローマ 8:31, 32; イザヤ 53:4-7）。

「イサクのかわりにささげられた雄羊は、われわれの身代わりとして犠牲となられる神のみ子を代表していた。人間が神の律法を破って死ぬべき運命に陥ったとき、父なる神は、み子をながめて、罪人に『生きなさい。わたしは、身代わりを見つけた』と言われた。

神が、アブラハムにその子を殺すように命じられたのは、アブラハムの信仰をためすとともに、彼の心に福音を現実的に強く印象づけるためでもあった。あの恐ろしい試練の暗黒の数日間の苦悩は、人類の贖罪のために払われた無限の神の大犠牲を、アブラハムが自分の体験によって学ぶために神が許されたのである。自分のむすこをささげることほど、アブラハムの心を苦しめた試練はなかった。神は、苦悩と屈辱の死に、み子を渡された。神のみ子の屈辱と魂の苦悩を見た天使たちは、イサクの場合のように、介入することが許されなかった。『もうそれでよい』という声は聞かれなかった。墮落した人類を救うために、栄光の王はご自分の生命をおさげになった。神の無限のあわれみと愛の証拠として、これ以上の強力なものがあるだろうか。」（人類のあけぼの上巻 161）

- b. 神がアブラハムに語られたときに、「あなたのひとり子イサク」という表現はどのような重要な意味がありましたか（創世記 22:2; マルコ 1:11; ヨハネ第一 4:9）。

「わたしたちの天父はご自分の愛する御子を十字架の苦悩へ明け渡された。……神のいとし子、世の贖い主は、死のうちに頭を垂れるまで、侮辱され、嘲られ、冷笑され、拷問された。無限のお方はわたしたちにどのようにこれ以上大きなご自分の神聖な愛と憐れみの証拠を与えることができるであろうか。〔ローマ 8:32 引用〕。」（彼を知るために 20）

「そこで、われわれは、彼と共に彼の栄光にあずかり、栄光と栄誉と不死と永遠の生命を与えられるために、喜んでイエスのために苦しみを忍び、日ごとに自己を十字架につけ、この地上において、キリストの苦しみにあずかる者となろうではないか。」（初代文集 215）

4. 約束の子孫の復活

- a. 神はどのように、約束の子孫、イエス・キリストが世の救い主となるべきことを示されましたか(創世記 22:7, 8, 11-13; ヘブル 11:17-19)。

「アブラハムに、その子をささげよという命令が与えられたときに、全天の関心がそれに注がれた。彼らは、緊張して、この命令が実行される段階を見守った。『燔祭の小羊はどこにありますか』とイサクがたずねたとき、アブラハムは、『神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう』と答えた。父が今にもむすこを殺そうとしたとき、彼の手がとめられて、神が備えられた雄羊がイサクに代わってささげられたときに、贖罪の神秘が明らかに照らし出されて、人類のための神の驚くべき準備が、天使たちにさえ明瞭に理解されたのである(ペテロ第一 1:12 参照)。」(人類のあけぼの上巻 162)

- b. アブラハムは、「イサクに生れる者が、あなたの子孫と唱えられる」という約束をつかんだときに、どのような素晴らしい真理を確信しましたか(創世記 21:12)? (創世記 22:5; ヘブル 11:18, 19)。

「アブラハムは……主の恵みとまことの証拠を考えて心を強くした。このむすこは、予期しないのに与えられた。尊い賜物を与えたかたは、ご自分の与えたものを取りもどす権を持たれないであろうか。すると信仰は、約束をくりかえす。『イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう。』彼らは海辺の砂のように無数になる。イサクは奇跡の子であった。であるから、彼に生命を与えたかたは、復活させる力があるのではないか。アブラハムは、目に見えるもののかたをながめて、『神が死人の中から人をよみがえらせる力がある』と神の言葉を理解した(ヘブル 11:19)。」(同上 156)

- c. この真理はどのように約束された真の子孫、イエス・キリストの型となっていましたか(使徒行伝 3:25, 26; ペテロ第一 1:18-21)。

「〔神の御子は〕墓から起き上がり、開かれた墓に向かって『わたしはよみがえりであり、命である』と宣言された(ヨハネ 11:25)。神と等しいお方がわたしたちのために死を通られた。このお方はすべての人のために死を味わわれた。それはご自分を通して、すべての人が永遠の命にあずかるものとなることができるためであった。』(天国で 13)

5. 約束の子孫の嗣業

- a. どの嗣業を神はアブラハムとその子孫に約束されましたか（創世記 17:7, 8; 詩篇 105:6-11）。このことはどのようにキリストの嗣業を象徴していますか（ダニエル 7:13, 14, 18; マタイ 25:31-34）。

「言葉では不死の嗣業の価値を表現することができない。神の御子によって提供されている栄光、富、誉は非常に価値があるため、それらの価値、卓越性、壮大さについて何らかの見解を与えることは、人や天使の力でさえ超えている。」（教会への証 2 巻 40）

- b. 神がご自分の約束を尊重し、ご自分の子らに約束の地を与えてくださるという確証を、どのように得ることができますか（ヘブル 6:13-18; ヨハネ 14:1-3）。

「わたしたちは救い主が再臨されることを長く待ってきた。しかし、それにも関わらず約束は確かである。まもなく、わたしたちは自分の約束の家になるようになる。そこではイエスがわたしたちを神のみ座から流れている生きた川のほとりに導き、この地上においてこのお方がわたしたちの品性を完全にするために導いてこられた暗いみ摂理を説明してくださる。そこでわたしたちは回復されたエデンの美しさを曇りのない視力で眺める。このお方がわたしたちの額におくださった冠を、贖い主の足元に投げ捨て、わたしたちの金の堅琴を奏で、全天をみ座に座しておられるお方への賛美で満たすのである。」（同上 8 巻 254）

個人的な復習問題

1. 神はアブラハムにどのように福音を明らかにされましたか。
2. キリストの神聖な起源をどの奇跡が宣言していますか。
3. アブラハムとイサクの経験は、どのように神が人類のために払われた犠牲の深さを明らかにしていますか。
4. なぜ復活は信徒にとって、非常に重要なのですか。
5. わたしたちは嗣業の地を待つ際に、何を決して忘れるべきではありませんか。

アブラハムの二人の息子

「そのしるすところによると、アブラハムにふたりの子があったが、ひとりには女奴隷から、ひとりには自由の女から生れた。」(ガラテヤ 4:22)

「信仰はうれしい感情の高揚ではない。それは単純に神をそのみ言葉通りに受け入れることである。すなわち、このお方はそうすると言われたがゆえにご自分の約束を果たされると信じることである。」(わたしたちの高い召し 119)

推奨文献： わたしたちの高い召し 119-122
人類のあけぼの上巻 439-444

日曜日 1 月 22 日

1. 約束の子

- a. なぜイサクは約束の子と呼ばれているのですか (創世記 15:2, 3; 17:15, 16; 18:9-14) (ガラテヤ 4:22, 23, 27, 28 参照)。
- b. アブラハムとサラは、主が子についてのみ約束を果たすのを、どのように手伝おうとしましたか (創世記 16:1-4)。

「アブラハムは、むすこが与えられるという約束を疑わずに信じたが、神がご自身の時と方法によって、みことばを成就なさるのを待たなかった。神の力にたよる彼の信仰をためすために、神は、約束の成就が遅れるのを許された。しかし、アブラハムはこの試練に耐えられなかった。サラは年をとっていたので、子供が与えられることは不可能だと考え、神のみこころが成就する計画として、彼女の侍女のひとりをお腹をアブラハムが第二の妻としてめとるように提案した。当時、一夫多妻は広く行なわれていたので罪だとは思われなくなっていた。しかしそれが、神の律法に違反することはまちがいになく、家族関係の神聖さと平和にとって致命的であった。アブラハムとハガルとの結婚は、彼ら自身の家庭だけにとどまらず将来の世代にまでも悪い結果をもたらした。」(人類のあけぼの上巻 150)

奴隷の子

- a. 神はアブラハムがイシマエルを約束の子として提示したときに、どのように応じられましたか（創世記 17:15-21）。

「アブラハムは、百才近くなったときに、むすこが与えられる約束がくり返し与えられ、将来の世継ぎはサラの子でなければならないという確証が与えられた。しかし、アブラハムは、まだ約束を理解しなかった。彼は、直ちに、イシマエルのことを考え、彼によって神の恵み深いみこころが成就するという考えを捨てなかった。彼は自分のむすこを深く愛して、『どうかイシマエルがあなたの前に生きながらえますように』と叫んだ（創世記 17:18）。ふたたび、まちがう余地のない言葉で約束がくり返された。『あなたの妻サラはあなたに男の子を産むでしょう。名をイサクと名づけなさい。わたしは彼と契約を立てて、後の子孫のために永遠の契約としよう』（創世記 17: 19)。」（人類のあけぼの上巻 151, 152）

- b. 神はなぜイシマエルを約束の子孫として受け入れることを拒まれたのですか（ガラテヤ 4:22, 23, 30; ローマ 14:23（下旬））。

「アブラハムとサラの信仰が欠けていたために、イシマエルが生まれ、義人の種族が神を敬わない者と混じった。父の子に及ぼす影響は、偶像礼拝者である母親の側の親族と、イシマエルがめとった異邦の妻たちによってその力をそがれた。」（同上 185）

- c. アブラハムはもし神がイシマエルを約束の子孫として受け入れられたなら、どの重要な真理を失ったはずですか（ローマ 4:1-5, 21, 22）。

「報酬は、働きによるものではなくて、全く恵みによるものである。」（キリストの実物教訓 380）

「わたしたちが完全な信仰の確証をもって個々に神に頼り、ただすべての罪から清めるこのお方の血の力だけに信頼するとき、わたしたちは神が約束されたことをこのお方は実行することがおできになると信じて平安を得るのである。」（セレクトド・メッセージ 3 巻 181）

「〔ピリピ 4:4-7 引用〕。わたしたちが約束されたお方は十分にそれを果たすことがおできになり、言われたことをすべて成す力において無限であることを完全に信じない限り、約束自体には何の価値もない。」（この日を神と共に 156）

3. 奴隷の子ら

- a. イシマエルとその母ハガルは、靈的にどの種類の人々を表すか説明しなさい。またそれはなぜですか (創世記 16:4-6; ガラテヤ 4:22, 23)。
- b. 使徒パウロはなぜ、当時エルサレムに生きていたユダヤ人たちを、ハガルやイシマエルのようなくびぎにつながれた僕として述べているのですか (ヨハネ 8:31-36; ローマ 9:6-8)。

「神に献身しようとしないう魂はみな、別の権力の支配下にある。彼は彼自身のものではない。彼は自由を口にするかも知れないが、最もあわれむべき奴隷状態にある。彼の心はサタンの支配下にあるので、真理の美しさを見ることがゆるぎされない。彼は、自分自身の判断の命令に従っているとうぬぼれているが、実は暗黒の君の意思に従っているのである。キリストは、魂を罪の奴隷の束縛から切り離すためにこられた。」(各時代の希望中巻 255)

「神はわたしたちがキリストのうちに自由であることができるように、すなわち悪習慣や悪い傾向の奴隷状態から自由であるように、非常に多くのことをしてくださった。親愛なる若い友人がた、キリストにあつて自由であるために奮闘しないであらうか。」(わたしたちの高い召し 29)

- c. 肉によるユダヤ人 (文字通りのアブラハムの子孫) は、神の祝福を受けることについて自分の信頼を、だれと何に置きますか (ヨハネ 8:37-40; ペリピ 3:3-9; ガラテヤ 6:12, 13)。

「ユダヤ人は、自分たちはアブラハムの子孫であると主張した。しかし、アブラハムのわざを行なわなかったことによって、彼らは、自分たちがアブラハムの真の子でないことを示した。神のみ声に従うことによって、靈的にアブラハムと一致していることを示す者のみが、真の子孫とみなされるのである。」(キリストの実物教訓 244, 245)

「パウロは一外部に現われた行為に関する限り『律法の義については落ち度のない者である』(ペリピ 3:6) と言ったが、ひとたび、律法の靈的精神が理解されたとき、自分は罪人であると悟ったのであった。人がおきてを外的生活にあてはめ、おきてを字義的に解釈すれば、彼は罪を犯していなかったと言えるのである。しかし、その聖なる条文の深い精神を見つめ、神がご覧になるように自らを見たとき、心へりくだってみ前に伏し、自らの罪を告白したのである。」(キリストへの道 33, 34)

4. 一つの寓話

- a. 神に受け入れられるために、わたしたちがキリストより、自分の行いに信頼するとき、どの契約の下に入りますか（ガラテヤ 4:21-25; 3:10; コリント第二 3:14, 15）。

「人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した（出エジプト記 24:7）。……その後わずか数週間しかたないうちに、彼らは神との契約を破り、偶像にひざまずいて礼拝したのである。彼らは、契約を破ってしまったために、神の恵みを受けることは望めなくなった。そして、今、自分たちの罪深さと、ゆるしの必要を認めた彼らは、アブラハムの契約にあらわされ、そして、犠牲のささげものによって示された救い主の必要を感じるようになった。彼らは今、信仰と愛によって、罪の奴隷からの救い主としての神に結びつけられた。こうしてこそ、彼らは新しい契約の祝福を感謝する用意ができたのである。……

『新しい契約』は、『さらにまざった約束』によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。……

石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、『御霊の実』を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。」（人類のあけぼの上巻 441-443）

- b. なぜ、人は律法を守ることによって、神のみ前に自らを義とすることはできないことが明らかなのですか（ガラテヤ 2:21; 3:11, 12）。

「もしキリストの贖罪の犠牲がなかったならば、わたしたちのうちに神が喜ぶことのおできになるものは何もない。人の生来の善は神の御目に無価値である。このお方はだれでも自分の古い性質を残し、キリストのうちに新しい人となるために知識と恵みにおいて新しくされないことをお喜びにならない。」（神の驚くべき恵み 66）

5. 兄弟たちの迫害

- a. ユダヤ人のキリスト教会への迫害を描写するのに、使徒パウロはどのような出来事を用いましたか（ガラテヤ 4:28, 29; 創世記 21:6-10）。
- b. なぜ霊の子らはいつも、肉の子らから迫害されるのですか（ヨハネ 15:17-22; ヨハネ 3:19, 20; ガラテヤ 5:17（上旬））。

「カインは弟を憎んで殺した。アベルが悪事を行なったからではなくて、『彼のわがが悪く、その兄弟のわがは正しかったからである』（ヨハネ第一 3:12）。……アベルの従順とゆるがない信仰の生活は、カインにとって絶え間ない譴責であった。……神の忠実なしもべたちの品性に反映する天の光が明るければ明るいほど、不信心な者の罪が明らかに示される。そして、悪人たちは何とかして自分たちの平和を乱す者を滅ぼそうとするのである。」（人類のあけぼの上巻 70, 71）

「初代のキリスト者たちは、実際、特殊な民であった。彼らの非難するところのない行状と確固たる信仰とは、絶えず罪人の心を責めるものであった。彼らは数が少なく、富も地位も名誉ある称号もなかったけれども、その品性と教義とが知られているところではどこでも、悪を行なう者たちにとって恐怖であった。それゆえに彼らは、アベルが神を恐れないカインに憎まれたように、悪人たちに憎まれた。カインがアベルを殺したのと同じ理由から、聖霊の抑制を拒む人々は神の民を殺した。ユダヤ人が救い主を拒んで十字架につけたのも、同じ理由からであった。すなわち彼の品性の純潔と神聖さが、絶えず彼らの利己心と墮落とを責めたからであった。キリストの時代から今に至るまで、彼の忠実な弟子たちは、罪を愛してその道を歩む者たちの憎しみと反対とを引き起こしてきたのである。」（各時代の斗争闘上巻 39, 40）

個人的な復習問題

1. 神のみ約束は、どのようにのみ成就することができますか。
2. 神はなぜ肉のわがを、決して義としてお受入れにならないのですか。
3. わたしたちはなぜ、自分たちの嗣業、自分たちの肉、あるいは自分たちの行ないに決して信頼を置くことができないのですか。
4. なぜ律法のわがによって義と認められることはできないのですか。
5. クリスマンが自分の信仰のゆえに覚悟しなければならない戦いの種類を描写しなさい。

第一安息日献金 世界災害と福祉のために

「〔主は〕しえたげられる者のためにさばきをおこない、飢えた者に食物を与えられる」(詩篇 146:7)。主イエスは次のように言われました、「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう」(マタイ 5:7)。「〔主は〕しえたげられる者のためにさばきをおこない、飢えた者に食物を与えられる」(詩篇 146:7)。今日、かつてなかったほど憐れみを働かせることが大いに必要とされています。神はわたしたちを管理者とされました。そしてこのお方は苦難や悲慘や裸や人類の必要について責任はありません。主はわたしたち全てのために十分な備えをしてくださいました。このお方はわたしたちにこれらの苦しむ人々や恵まれない人々の欠乏を和らげるために大いなる供給を与えてくださったのです。



毎日、わたしたちは地震、戦争、洪水、噴火、またその他財産や人名に破壊や大損害をもたらす災害や問題を世界中で聞きます。わたしたちが災害について聞くとすぐに彼らの必要に応えるために行動に移します。どのように応えるかは、災害の性質や、国、目下の経済や地理や政治的状况によります。わたしたちはすみやかに状況を分析し始め、何が一番良い対応かを決定します。

これに加え、平穏時に福祉支部は、申し込みを通じての基金、技術支援、訓練、指導、また事業の特定や実施などを提供します。わたしたちに専門知識があるところでは、必要とされているところに監督や指導を提供することによって支援したいのです。わたしたちの目標は、食物、衣服、毛布、避難所、あるいは心理的援助やカウンセリングなど何でも地方の教会がその地域の必要に応じることができるように強化することです。

神の愛を世界中に分ち合うことは、飛ぶための燃料を必要とする飛行機のようなものです。皆さんの献金はこれらの不足を援助するほとんどすべての方面を推進する燃料です。皆さんの参加とこの燃料がなければ、わたしたちの努力もまた災難となることに間違いありません。全ての人が災害の現場へ行くことは難しいですが、資金は遠くへ行くことができます。皆さんの心が動かされ、この高尚な任務に参加するようお願いします。この事業のために惜しみない献金をお願いします。

福祉支部より皆さんの兄弟より

真のアブラハムの子ら

「だから、信仰による者こそアブラハムの子であることを、知るべきである。」(ガラテヤ 3:7)

「自らを幼子のようにへりくだらせるすべての人、子どもの単純さをもって神のみ言葉を受け入れ従うすべての人は、神の選民の中にいるであろう。」(わたしたちの高い召し 77)

推奨文献：わたしたちの高い召し 75-79;

国と指導者上巻 335-339

日曜日 1 月 29 日

1. 真のアブラハムの子ら

- a. 聖書はだれを真のアブラハムの子、真のイスラエル人として認めていますか (ローマ 9:6-8; ガラテヤ 3:7-9)。

「神のイスラエルの中には、肉によるアブラハムの子孫ではない多くの人々が数えられるという真理を、ユダに明らかに示すようにイザヤは命じられた。この教えは彼の時代の神学と一致していなかったが、それでも彼は恐れることなく神から与えられた使命を伝え、アブラハムの子孫に約束された霊的祝福を渴望していた多くの人々に希望を与えたのである。」(国と指導者上巻 335)

- b. どのようにして異邦人、すなわち字義的な子孫としては子供でない人が、今は真のアブラハムの子孫とみなされることが出来ますか (ローマ 9:30; 4:11, 12, 16, 17)。

「キリストを通して、信仰の子となる者はみな、アブラハムの子孫に数えられるのであった。彼らは契約の約束を継ぐ者であった。彼らはアブラハムのように、神の律法と、み子の福音を守り、これを世に知らせる務めに召された。」(人類のあけぼの下巻 93)

2. アブラハムの養子

- a. アブラハムの約束された子孫としてのキリストを信じる信仰を通して、どの家族にわたしたちは養子として迎え入れられますか（ローマ 8:14-16; ガラテヤ 4:4-7）。

「すべての人が救われるようにというのが神のみ旨である。なぜなら、人のあがない代を払うためにご自分のひとり子を与えて下さることによって、豊かな備えがなされているからである。滅びる人は、キリスト・イエスを通して神の子として養子にされることを拒むがゆえに滅びるのである。人の誇りが、救いの備えを受け入れることを妨げる。」（わたしたちの高い召し 78）

- b. イエス・キリストの犠牲はどのように人を神の子、しかも信仰の子としますか。まただれにこれはあてはまりますか（ガラテヤ 3:27-29）。

「人は世の目に偉大なことだと映ることを実行するかもしれない。彼らの偉業は数多く、人間の目には高度なものかもしれない。しかし、世のすべてのタラント、すべての技能、すべての能力は品性を変え、墮落した罪の子を神の子、すなわち天の相続人にすることはできない。人には魂を義認し、心を聖化させる力はない。……天の最高の賜物、すなわち恵みと真とに満ちた御父のひとり子だけが失われた者を贖うことがおできになる。……カルバリーの十字架上でのキリストの犠牲はすべての圧倒的な罪の力をしのぐ熟考の主題である。そして罪の自覚が罪人の心に迫り、その重荷が耐え難いものに思われるとき、イエスは彼にご自分を見て、生きるように招かれる。」（サィズ・オブ・タイムズ 1892 年 5 月 2 日）

- c. アブラハムの子らがなぜイスラエルからだけではなく、すべての部族と国家から成るのかを説明しなさい（黙示録 7:9, 10; 創世記 17:4-6; 使徒行伝 10:34, 35）。

「キリストは国家や階級や信条の区別をお認めにならない。律法学者やパリサイ人は天のすべての賜物を地元の国家的な利益とし、世の中の残りの神の家族は締め出したいと願った。しかし、キリストはすべての分裂の壁を打ち壊すために来られたのである。このお方は憐れみと愛というご自分の賜物が、地を清新にする空気や光や雨の注ぎのように、限定されないものであることを示すために来られた。」（教会への証 9 巻 190）

3. 偽物のアブラハムの子ら

- a. なぜアブラハムの字義通りの子孫たちは、神の御目に真のイスラエル人となるのにふさわしくないものとなったのですか（ローマ 10:1-4）。

「ユダヤ人は、彼ら自身の罪のゆえに神から離反していった。彼らは、象徴的儀式の深い霊的意義を認めることができなかった。彼らは自らを義とし、自分たちの行為、犠牲や儀式そのものに頼り、こうしたことのすべてが指示していた主の功績に頼ることをしなかった。こうして彼らは、『自分の義を立てようと努め』自己満足的形式主義に凝り固まってしまった（ローマ 10:3）。彼らは、神の聖霊と恵みに欠けていたので、その欠点を宗教的儀式と礼典を厳格に守ることによって補おうとした。彼らは、神ご自身がお命じになった儀式では満足せずに、彼ら自身が考案した無数の禁令によって、神の戒めを繁雑なものにした。彼らは、神から遠く隔たれば隔たるほどますます厳格にこうした形式に固執したのである。」（国と指導者 下巻 310）

- b. 何が神のみ前に義と認められる唯一の方法ですか（ガラテヤ 3:11,12; 2:16）。信仰によって義とされた人々の生涯においてどのような変化が明らかになりますか。

「義認は完全に恵みによるものであり、墮落した人間にできる何かの行いによって得られるものではない。」（信仰と行い 20）

「高慢な心は、自分の行為によって救いを得ようと努力する。しかし天国にはいる権利書と資格はキリストの義のうちにある。自分自身の弱さを自覚し、すべてのうぬぼれを取り去って、自分自身を神の支配にまかせるまでは、主は、その人の回復のために何もすることがおできにならない。自分自身を神にまかせるときに、彼は、神が与えようと待っておられる賜物を受けることができる。」（各時代の希望中巻 4）

「自分で律法を守る行為によって天国にはいろうとする者は不可能なことを試みているのである。律法的な宗教、敬虔の形だけを持っている者には安全がない。クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生れ変ることである。自我と罪に対する死があり、まったく新しいいのちがある。この変化は聖霊の効果的な働きによってのみ行われる。」（同上上巻 201, 202）

4. アブラハムの僕たち

- a. キリストを約束の子孫と信じるアブラハムの信仰を抱かない人々は息子むすめではなく、僕とみなされます。彼らはどうなりますか(創世記 16:3-6; ガラテヤ 4:30, 31)。

「ノアと彼の家族は、箱舟にはいった。そして『主は彼のうしろの戸を閉ざされた』。……内側にいる者では閉じることのできない巨大な扉が、目に見えない手で静かに閉ざされた。ノアは、内側に入れられ、神のあわれみを退けたものは閉め出された。その扉の上には、神の印が押された。神がそれをおしめになった。だから、ただ神だけがそれをあけることがおできになるのである。そのように、キリストが天の雲に乗ってこられる前に、罪深い人間のためのキリストのとりなしは終わり、恵みの扉は閉ざされる。そうすると、神の恵みは、これ以上悪者を抑制しなくなるので、サタンは、恵みを退けた人々を完全に支配する。」(人類のあけぼの上巻 96)

- b. だれに、そして何に対して、彼らは本当の僕なのですか(ヨハネ 8:31-35, 39-44)。

『あなたがた自身が、だれかの僕になって服従するなら、あなたがたは自分の服従するその者の僕であ……る』(ローマ 6:16)。もし怒り、欲、貪欲、憎しみ、利己心、あるいはその他何かの罪にふけるなら、わたしたちは罪の僕となる。『だけれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない』(マタイ 6:24)。もし罪に仕えるなら、わたしたちはキリストに仕えることはできない。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1887年 11月 15日)

- c. なぜキリストを拒む人々は、アブラハムとその子孫に約束されたカナン之地に入ることができないのですか(ヘブル 3:17-19; 使徒行伝 4:10-12; ガラテヤ 3:9)。

「四十年の間、不信、つぶやき、そして反逆が昔のイスラエルをカナン之地から締め出したのであった。同じ罪が現代のイスラエルが天のカナンに入ることを遅らせてきた。いずれの場合も神の約束に責任はない。主の民だと公言する者たちの間の不信、世俗、献身しない態度、争いが、わたしたちをこの罪と悲しみの世にこれほど長い間引き留めてきたのである。」(伝道 696)

5. 教会に対する警告

- a. ガラテヤの教会にどの警告が与えられましたか。またそれはなぜですか（ガラテヤ 3:1-6; 4:7-11）。

「カルバリーの十字架上でわたしたちの主によって成し遂げられた贖いは、わたしたちに着せられるこのお方の義によって神の律法を守ることを可能とし、わたしたちを神の律法への従順へと導くべきである。……

罪ほど神の御目に不快なものはない。罪のうちに続けることによって神の律法を無効にする代わりに、真に改心したすべての魂は、神の戒めのすべてに対して謙遜な従順の道を歩むようになる。彼らは真理を知るために聖書を探る。従順よりは罪が選ばれると、悔い改めない者、不法者を惑わしてきた者はだれか。それはエデンでアダムとエバに及んだサタンの力であり、墮落した天使たちの欺瞞的な惑わしの力である。」（上を仰いで 209）

- b. 自分自身の信仰に対するアブラハムの苦闘は、どのようにわたしたちにとって教訓ですか（創世記 15:3-6; 17:17, 18; ヘブル 4:1, 2）。一方、真の信仰はわたしたちに何を与えますか（ヨハネ第一 5:4, 5）。

「クリスチャンの生涯は信仰と勝利と神にある喜びの生涯である。……神はご自分の僕たちに彼らの必要とするすべての力を授け、彼らの様々な必要に応える知恵をお与えになることができるし、そうしたいと願っておられる。このお方はご自分に信頼する人々の最高の期待を満たす以上のことをしようとしておられる。」（信仰によってわたしは生きる 126）

個人的な復習問題

1. 信仰はクリスチャンにとってどれほど重要ですか。
2. なぜクリスチャンは神を自分の父と呼ぶことができるのですか。
3. 神によってのろわれることをどのように避けることができますか。
4. アブラハムの僕と彼の息子むすめとなることの間には、どのような相違がありますか。
5. わたしたちは自分の信仰を墮落させることによって、どのように悪魔に惑わされるかもしれませんか。

永遠の契約

「わたしはあなた及び後の代々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう。」(創世記 17:7)

「恵みの契約は新しい真理ではない。なぜなら、それは永遠の昔から神のみ思いの中に存在していたからである。これこそ、それが永遠の契約と呼ばれている理由である。」(サインズ・オブ・タイムズ 1891 年 8 月 24 日)

推奨文献： 信仰によってわたしは生きる 76-78, 360-364

日曜日 2月5日

1. 永遠の契約

- a. アブラハムに対して結ばれた契約が、カルバリーでキリストによって批准されたものと同じであることを何が示していますか(創世記 22:16; ヘブル 6:13-18; 9:16)。

「アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、『第二の』または、『新しい』契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである。新しい契約が、アブラハムの時代に効力をもっていたことは、そのとき、神の約束と誓いによって保証されたことによって明らかである。『それは、偽ることのあり得ない神に立てられた二つの不変の事らによって』である(ヘブル 6:18)。(人類のあけぼの上巻 440)

- b. この契約の下で、何が約束されていますか。またどのようにアブラハムは応じましたか(創世記 17:1-8; 15:6; 26:5; 以下参照 ガラテヤ 3:8, 16; ローマ 4:20-22)。

「この契約は、すべての人に罪のゆるしを与え、キリストを信じる信仰によって、その後従うことができるように、神の恵みの助けを与えた。それは、また、神の律法に忠誠を尽くすことを条件にして、永遠の命を約束した。」(同上 439)

「神の律法がこの契約の基礎であった。律法は、単に、神のみこころに人々をもう一度調和させ、彼らが神の律法に従うことができるようにする手段であつたに過ぎない。」(同上 440)

2. 永遠の関係

- a. 神はご自分がアブラハムとその子孫とに確立された契約関係をどのような方法で表現されましたか（レビ記 26:12。以下参照 創世記 17:7, 8; 申命記 14:2; 29:13）。
- b. 契約関係の印として、神はアブラハムに何をお与えになりましたか。またそれはなぜですか（創世記 17:11; ローマ 4:11）。

「このとき、アブラハムは、『無割礼のままで信仰によって受けた義の証印』として割礼を受けた（ローマ 4:11）。割礼は、アブラハムとその子孫が、自分たちを神の奉仕にささげて偶像礼拝者から離れ、そして、神が彼らを神の特別の宝としてお受けになったことのしるしとして、守るべきものであった。」（人類のあけぼの上巻 140）

「〔割礼〕は割礼を受けたものは、神の奉仕に献身したというしるしであった。それは、彼らが偶像礼拝から離れて、神の律法を守るという契約であった。」（同上 431）

- c. わたしたちは今日同じ神との「新しい」契約関係に入るために、どの重要な経験を持たなければなりません（申命記 10:16; コロサイ 2:11; ヘブル 8:10; コリント第二 6:16, 17）。

「わたしたちは神に選ばれていること、キリストの恵みと聖霊の働きを通して、信仰を働かせることによって救われるべきことを信じるべきである。そしてわたしたちは自分たちに不相応なこのお方の驚くべき恩寵の表れのゆえに、神を賛美し、栄光を帰すべきである。恵み深く受け入れられ、御父に提示されるために魂をキリストに引き寄せるのは神の愛である。御霊の働きを通して、神と罪人の間の聖なる関係は新たにされる。御父は次のように言われる、『わたしは彼らに対して神となり、彼らはわたしに対して民となる。わたしは彼らに許しの愛を働かせ、彼らにわが喜びを与える。彼らはわたしにとって特別な宝となる。なぜなら、わたしが自らのために形成したこの民はわが誉を示すからである。』（サインズ・オブ・タイムズ 1893年1月2日）

「主の家族に受け入れられる条件は世から出てきて、あらゆる汚れた感化力から分離することである。」（神の驚くべき恵み 57）

3. 永遠の祭司職

- a. なぜキリストはアロンにではなく、メルキゼデクに等しい祭司と呼ばれているのですか（ヘブル 5:5, 6; 7:11-16; マタイ 1:1, 2）。

「大祭司は特別な方法でキリストを表すよう計画されていた。このお方は永遠にメルキゼデクに等しい大祭司となられるのであった。この祭司職の順番は他の人に渡されたり、引き継がれたりするのではなかった。」（*パウル・コメント* [E・G・ホイト・コメント] 17 卷 930）

- b. どのような意味において、メルキゼデクの祭司職はキリストの永遠の祭司職と関連していますか。またなぜアロンの祭司職よりも優れているのですか（以下、比較参照ヘブル 7:1-3 と ヘブル 7:20-25; 6:18-20）。

「いと高き神の祭司、メルキゼデクを通して語られたのはキリストであった。メルキゼデクはキリストではなかったが、彼は世における神の声であり、御父の代表であった。」（*エレキッド・メッセージ* 1 卷 409）

「この無力な小さな赤ん坊の名前は……墮落した人類の望みであった。あがないの金を払ってもらったこの子供が、全世界の罪のためにあがないの金を払われるおかたであった。彼は、『神の家を治める大いなる祭司』であり、『変らない祭司の務』の長であり、『高き所にいます大能者の右に、座につかれた』仲保者であった（ヘブル 10:21; 7:24; 1:3）」（各時代の希望上巻 42）

- c. 神の祭司がアブラハムに捧げた食べ物には、どのような類似するものがありますか（以下、比較参照 創世記 14:18-20 とコリント第一 10:16; 11:23-26）。

「パンとぶどう汁はキリストの体と血を象徴している。パンが裂かれ、ぶどう汁が注がれたように、わたしたちを救うために、キリストの体も裂かれ、このお方の血が流された。」

パンを食べ、ぶどう汁を飲むことによって、わたしたちはこれを信じていることを示すのである。わたしたちは自分たちの罪を悔い改め、キリストを自分の救い主として受け入れることを示すのである。」（イエスの物語 98）

4. 永遠の所有

地上の地は影にすぎない、どの永遠の地を、神はアブラハムに約束されましたか（創世記 17:8; ヘブル 11:8-10; 黙示録 21:2）。

「ヘブル人のいろいろな経験は、彼らがカナンの約束の地へはいるための準備の学校であった。神は、今日の神の民が、古代イスラエル人の経験した試練を、へりくだった心と教えを受ける精神をもってふりかえり、天のカナンにはいる準備に役立てるように望んでおられる。」（人類のあけぼの上巻 338）

「地上にあるあらゆる美しいものによって、わたしたちは自分の天の故郷の水晶の川、緑の野、揺らぐ木々に生きた泉、輝く都、白い衣を着た歌い手たちを思い起こそうではないか。それはどんな芸術家も描くことができず、どんな人間の舌も描写できない美の世界である。」（信仰によってわたしは生きる 279）

b. アブラハムとその子孫は自分の永遠の嗣業をいつ、どのように受けるようになりますか（マタイ 25:31, 34; ヨハネ 14:1-3, ダニエル 7:27）。

「裂けたり、でこぼこのあった地球の表面は、今、平坦で広々とした平野になった。神のすべての宇宙は清まり、大争闘は、永遠に終わりを告げた。どこを見ても、何を見ても、すべては美しく聖であった。そして、贖われたすべての人々は、老いも若きも、大なる者も小なる者も、彼らのきらめく冠を贖い主の足もとに投げ出して、彼の前にひれ伏して彼をあがめ、永遠に生きておられるかたを礼拝した。栄光に輝く美しい新しい地球は、聖徒たちの永遠の嗣業であった。国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たちに与えられた。そして、彼らは、それをいつまでも、永遠に所有するのであった。」（初代文集 474）

「神の栄光のみ国の建設は、キリストがこの世界に再臨される時まで完成を見ることはない。『国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる』（ダニエル書 7:27）。彼らは、『世の初めから』彼らのために用意されたみ国を受けつぐのである（マタイ 25:34）。そして、キリストは大いなる力をご自身の手に収めて、統治なさるのである。」（祝福の山 135）

5. 永遠の命

- a. 永遠の契約を通じて与えられているすべての約束の中で最も偉大なものは何ですか（ガラテヤ 3:29; ヨハネ第一 5:11; 黙示録 21:3, 4）。

「戦いが終り、勝利を勝ち得る日がきている。神のみこころが天に行われるとおり、地にも行われなければならない。救われた民は天の律法のほかに、どんな律法も守ることはなく、すべての人が幸福な、一つに結ばれた家族となり、感謝と賛美の衣、すなわちキリストの義の衣をまと……うのである。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 492）

「〔天では〕失望も、悲しみも、罪もなく、だれも『わたしは病気だ』と言う者もない。そこに葬送の列はなく、嘆き、死、別れ、傷心もない。そしてイエスがそこにおられ、平安がそこにある。……このお方のご臨在のうちに満ち満ちた喜びがあり、このお方の右の手にはとこしえの喜びがあるのである！」（今日のわたしの生涯 349）

- b. わたしたちはどの望みについて決してあきらめてはなりませんか（テトス 2:11-13; ヘブル 10:35-37）。

「クリスチャン兵士よ、しんぼう強くあれ、もうしばらくすれば、来るべきおかたは来られるのである。疲労して待ち、見張り、嘆く夜はもう終わろうとしている。報いはすぐに与えられる。永遠の日の夜明けが来る。今、あえてまどろむ者は、良い事をする尊い機会を失ってしまう。この大いなる収穫時にわれわれは穀物の束を集める祝福ある特権を授けられている。そして、救われたすべての魂は崇拜する贖い主、イエスの冠の星として加えられる。」（クリスチャンの奉仕 401）

個人的な復習問題

1. わたしたちはどのように神のみ言葉に確信を持つことができますか。
2. わたしたちはアブラハムが持っていた同じ神との契約関係を、どのように持つことができますか。
3. わたしたちはキリストの永遠の祭司職にどのように確信を持つことができるか説明しなさい。
4. アブラハムの子らの祝福された望みは何ですか。
5. なぜ神と共に生きる永遠の命が、クリスチャンの祝福された望みなのか。

約束の契約

「もし相続が、律法に基いてなされるとすれば、もはや約束に基いたものではない。ところが事実、神は約束によって、相続の恵みをアブラハムに賜ったのである。」（ガラテヤ 3:18）

「わたしたちの贖い主がわたしたちの手の届くところに贖いを置いてくださったのは、無限の犠牲と言いきくせない苦しみを通してであった。」（セレクト・メッセージ 1 巻 322）

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 430 - 444

日曜日

2 月 12 日

1. 約束の新しい契約

a. アブラハムは神からどのような方法で、祝福の新しい契約を受けましたか（ガラテヤ 3:14, 16-18）。

「アブラハムには、彼の家系から世の救い主が生まれるという約束が与えられた。『地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう』（創世記 22:18）。『それは、多数をさして「子孫たちとに」と言わずに、ひとりをして「あなたの子孫とに」と言っている。これは、キリストのことである』（ガラテヤ 3:16）」（患難から栄光へ上巻 238）

b. なぜ神の約束は人間の約束よりも確実なのですか（以下、比較参照 ガラテヤ 3:15; ヘブル 6:13-18 とヤコブ 1:8; マタイ 26:33, 73-75）

「神が人間の恐れや弱さから生じるあらゆる疑いや疑問の原因を取り除き、信仰のうちにご自分に向かって伸ばされた震える手を信仰のうちにつかむために下ってこられるとは、なんと驚くべき愛であろう。そしてこのお方は積み上げられた保証と安全により、わたしたちがご自分に信頼するのを助けて下さる。このお方はわたしたちの従順を条件に、拘束力のある契約を結んでくださった。このお方はわたしたち自身の物事の理解に合わせてわたしたちに应じてくださる。わたしたちは墮落した人間からの制約や約束が記録されたら、さらに保証が必要だと考える。イエスはこれらの特別な恐れに应じて、ご自分の約束を誓いをもって保証されたのである。」（彼を知るために 262）

2. 無効にすることができない

- a. アブラハムの何年後に、神はイスラエルと古い契約を結ばれましたか。またなぜそれは約束の新しい契約を無効にすることができないのですか（申命記 4:9-13; ガラテヤ 3:17; ペテロ第一 1:18-20）。

「聖書で『古い』契約と呼ばれているが、それは、シナイで神とイスラエルの間に結ばれたもので、それは、そのとき犠牲の血によって批准された。アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、『第二の』または、『新しい』契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである。」（人類のあけぼの上巻 440）

- b. どれくらいの間、礼典律は有効であるべきでしたか（ガラテヤ 3:19; コリント第二 3:12-14）。

「モーセを通して神によって与えられた礼典律はその犠牲と儀式と共に、世の罪を取り除く神の小羊としてのキリストの死において型と本体が合うときまで、ヘブル人に対して拘束力を持つのであった。そのとき、すべての犠牲制度の捧げものと奉仕は廃止されるのであった。」（レ・ユー・アンド・ヘラルド 1881 年 9 月 27 日）

- c. もし神がすでにアブラハムとの永遠の契約を約束されたなら、なぜこのお方はモーセを通して別の契約を追加されたのですか（ガラテヤ 3:19, 21-24; ローマ 3:20（下句）; 7:7）。

「〔イスラエルの〕人々は、その奴隷時代に、神に関する知識と、アブラハムに与えられた契約の原則の大部分を忘れてしまっていた。……神の力と恵みを彼らにあらわし、彼らが、神を愛し、信頼するようになることを望まれた。……それは彼らが自分たちには全く力がなく神の助けの必要なことを悟るためであった。このようにしてのちに、神は彼らを救い出されたのである。……」

彼らは、偶像礼拝と腐敗のなかで生活していたので、神の神聖さと、自分たちの心のはなはだしい罪深さと、自分たちの力だけでは、神の律法を守ることができないこと、そして、彼らには、救い主が必要であることを真に自覚していなかった。こうしたことを、すべて、彼らは学ばなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 441）

3. 行いの古い契約

- a. どのような方法によって、モーセは神から古い契約の祝福を受けましたか（出エジプト記 19:5-7; ガラテヤ 3:12）。

「神は、〔イスラエル人〕をシナイに導き、ご自分の栄光をあらわされた。神は、彼らに律法を与え、服従することを条件にして、大きな祝福をお約束になった。」（人類のあけぼの上巻 441）

- b. 古い契約の下で神のご要求に対する民の反応は、どのようなものでしたか（出エジプト記 19:8）。わたしたちはどのように同じ危険性に陥る可能性がありますか。

「人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。」（同上 441）

「自己義はこの時代の危険である。それは魂をキリストから引き離す。自分自身の義に信頼する人々は救いがキリストを通してもたらされることを理解できない。彼らは罪を義と呼び、義を罪と呼ぶ。彼らは不法の邪悪さを評価できず、律法の恐ろしさを理解できない。なぜなら、彼らは神の道徳的標準を尊重しないからである。今の時代これほど多くの偽ものの改心が多い理由は、神の律法の評価があまりにも低いからである。神の義の標準の代わりに、人は品性を図るために自分自身の標準を打ち立ててきた。」（信仰と行い 96）

「キリストの血の必要を感じない者、神の恵みがほしくても、自分の行ないによって神に受け入れられると思っている者は、カインと同じあやまちを犯している。彼らは、清めの血を受けなければ、罪の宣告下にある。」（人類のあけぼの上巻 68）

- c. それでは古い契約の下で、律法の目的は何でしたか（ローマ 7:9-13）。今日その目的はどのように続いていますか。

「律法はわたしたちに罪を明らかにし、そしてわたしたちにキリストの必要を感じさせ、神に対する悔い改めと主イエス・キリストに対する信仰を働かせることによってキリストに許しと平安を求めるためにこのお方下へ逃れさせる。」（パイグル・コメンタリ [E・G・ホフ・コメンタリ] 6 巻 1110）

4. 心 に記される

- a. 新しい契約の約束において、神はご自分の律法の諸原則をどこに記したいとおられますか（ヘブル 8:10）。わたしたちの態度はどのようなものになりますか（詩篇 40:8）。

「石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、『御霊の実』を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心にかかれた神の律法に従って生きるのである。」（人類のあけぼの上巻 442）

「わたしたちの心のうちにある神の律法は、わたしたち自身の関心を、高い永遠の熟考の主題の下におく。」（神のむすこ娘たち 50）

- b. この心と思いの変化を、神はどのように成し遂げられますか（エゼキエル 36:25-27; コロサイ 3:9, 10）。

「魂が悔い改めて、神を愛し、神の戒めを守るようになるたびに『わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け』るとの神の約束が成就される（エゼキエル書 36:26）。人間の心の変化、すなわち人の品性が一変することは、一つの奇跡であって、それは生きておられる救い主が魂を救うために働いておられる証拠である。」（各時代の希望中巻 170, 171）

- c. 契約の約束を信じる信徒は、実際にだれの新しい心と思いを受けるのですか（ピリピ 2:5; コリント第一 2:16（下句））。

「われわれが天から生まれるときに、イエスのうちにあったのと同じ心がわれわれのうちに宿ようになる。それはわれわれを救うために自らいやしい身となられたイエスの心である。そのときわれわれは、最高の地位を求めなくなる。われわれはイエスの足元にすわってイエスについて学びたいと望むようになる。われわれの働きの価値は、世間にそうぞうしい宣伝をしたり、自分自身の力で熱心に活動したりすることにあるのではないということがわかる。われわれの働きの価値は、聖霊を与えられる度合いに比例する。」（同上中巻 51, 52）

5. 律法の問題

- a. 新しい契約の経験は、どのように律法の問題と意図を完全に成就しますか（マタイ 5:43-48; ローマ 13:8-10）。

「従順ということは、単なる外面だけの服従ではなく、むしろ愛の奉仕をさすのである。神のおきては神の品性そのものを表現したものであり、愛の原則を具体化したものであるから、天にあっても地にあっても神の政府の基礎である。わたしたちの心が神のみかたちに似て新しくされ、神の愛が心のうちに植えつけられるならば、神のおきては日々の生活に実行されるのではないだろうか。愛の原則が心に植えつけられ、わたしたちの心が創造主である神のみかたちに似て新たにされるとき、はじめて『わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』（ヘブル 10:16）という新しい契約が成就されるのである。こうしておきてが心にしるされるとき、それはその人の生活を左右するのではないだろうか。」（キリストへの道 78, 79）

- b. 律法の問題を、アブラハムのように自分たちの心のうちに持っている人々には、何が約束ですか（ヨハネ第一 2:25）。

「わたしたちの身代わりであり、保証人であられるお方が天から来られて、ご自分と共に膨大で計り知れない永遠の命という賜物を携えてきたと宣言される。許しは忠誠をもって神の律法へ帰るすべての人々に提供されている。」（この日を神と共に 84）

個人的な復習問題

1. 神は偽ることができないという光のうちに「約束」という言葉の意味を説明しなさい。
2. 古い契約において、律法の目的は何でしたか。
3. なぜ古い契約は信仰に欠け、したがって決して救うことができないのですか。
4. 神はどのようにしてわたしたちの心と思いのうちにご自分の愛の律法を記すことがおできになりますか。
5. だれだけに、神の御国における永遠の命の約束が与えられることになりますか。

恵みの契約

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。」(エペソ 2:8)

「恵みは受ける価値のない者、すなわち失われている者への恩寵を意味する。わたしたちが罪人であるという事実が、わたしたちを神の憐れみと愛から締め出す代わりに、わたしたちが救われるためにこのお方の愛がわたしたちに対して働くことを実際に必要なものとするのである。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 347)

推奨文献： 信仰と行い 15-28

日曜日 2月19日

1. 恵みによって召される

- a. 神の契約の祝福が自分に下るのにふさわしいものとなるため、アブラハムは何をしましたか (ローマ 4:1-3; コリント第一 1:26-31)。

「恵みとは受ける価値がない人間に向かって働く神の特性の一つである。わたしたちがそれを求めたのではなく、わたしたちをさがすためにそれが送られたのである。神は恵みを喜んで与えてくださるが、それは、わたしたちにその価値があるからではなく、反対に全く無価値な者であるからである。……

神はイエス・キリストを通じて罪深い、墮落した人類に手をさし伸べて招いておられる。神はすべての者を受け入れ歓迎される。最も罪深い者をおゆるしになることは神の栄えである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 135)

- b. 神はなぜ、ご自分に従ってくださるようにと、受ける価値のない魂を招かれるのですか (マタイ 9:12, 13; ローマ 3:11; 5:6-8)。

「受ける者に価値がなければいほど、神の憐れみはますます栄光に満ち、わたしたちはますます熱心に自分たちを暗闇から神の驚くべき光に招き入れてくださったお方への賛美を表すのである。」(世界総会冊子 1893年1月28日)

2. 恵みによって救われる

- a. なぜアブラハムは義人であると宣言されたのですか(創世記 15:6; ローマ 4:20-22)。わたしたちもまた、どのように義とみなされることができますか。

「あたかもキリストの救いを求めてこのお方のみ前に行くことができる前に、自分自身でなすべき大きな働きがあると感じているかのような人々が多くいる。彼らはイエスが自分たちの苦闘の最後の最後に来て、彼らの生涯の働きに完成の一触を与えることによって、自分たちに助けを与えてくださると考えているかのようなのである。彼らにとって、キリストが不足のない救い主であり、ご自分によって神のみもとへ来るすべての人を最高にまで救うことがおできになることを理解するのが難しいようである。彼らはキリストご自身が『道であり、真理であり、命である』という事実を見失っている。わたしたちが個々に、信仰の完全な確信をもって、すべての罪から清めるこのお方の血の力だけに信頼して、キリストに安んじるとき、神が約束されたことは実行することがおできになると信じることによって平安を得るのである。」(ヘレッド・メッセジ 3 巻 181)

- b. アブラハムの信仰はどこから来ましたか(ローマ 12:3 (下句) ; ヘブル 12:2)。

「わたしたちの日々、時々働きは次の使徒の言葉の中に明確にされている、『信仰の導き手(創始者)であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ』(ヘブル 12:2)。こうしている間、わたしたちの思いはますます明確になり、わたしたちの信仰はますます強くなり、わたしたちの希望はますます堅固なものとなる。わたしたちはこのお方の純潔さと麗しさと、またわたしたちを神との契約に入れるために払われた犠牲を見て夢中になるあまり、疑いや失望を語ろうとする気えなくなるのである。」(教会への証 5 巻 744)

- c. 信仰でさえ、神の恵みの賜物であるがゆえに、どのようにアブラハムのような人々だけが救われるのですか(エペソ 2:8, 9; ローマ 3:24, 25)。なぜ、わたしたちは自分の救いについて、誇りとするところが何もないのですか。

「わたしたちが神に受け入れられるのはただこのお方の愛する御子を通してのみ確実である。そしてよい行いはこのお方の罪を許す愛の働きの結果にすぎない。それらはわたしたちの功績ではなく、わたしたちには自分の魂の救いにおいて役割を果たしたと主張できるようなよい行いとして認められるようなものは何もない。救いは信じる者への神の無償の賜物であり、キリストのためにのみ彼に与えられるのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1122)

3. 信仰を働かせる

- a. 信仰は賜物ではありますが、わたしたちはそれをもって何をなすべきですか（ヨハネ 3:16; ルカ 7:1-9; ローマ 10:17）。

「神の賜物を受け入れることのできる信仰は、それ自体が賜物であり、それはすべての人に幾分か与えられている。神のみ言葉をわがものとするために信仰を働かせるときに信仰は成長する。信仰を強めるためには、神のみ言葉にたびたび接触しなければならない。」（教育 300）

「男女は自ら信仰を働かせ、真の基礎の上に築かない限り、神がご自分の聖霊によって自分たちを再創造するのを許さない限り、救われることはない。」（サインズ・オブ・タイムズ 1900 年 2 月 14 日）

- b. 百卒長のように、何の上にアブラハムは自分の信仰を働かせることを選びましたか（ローマ 4:18-21）。

「神のみ言葉とみ約束だけがわたしたちの信仰の基礎である。神のみ言葉を真理として、あなたに語りかける生きた声として信じ、すべてのご要求に忠実に従いなさい。神は、すなわち約束してくださった方は忠実なお方である。……わたしたちの祝福はわたしたちの信仰の弱さによって制限されている。」（安息日学校への勧告 78）

- c. 神はアブラハムが信じることを選んだがゆえに、どの無償の賜物を授けてくださいましたか（ローマ 4:22; ガラテヤ 3:6）。

「キリストの義が、何かわたしたちの側の功績によってではなく、神からの無償の賜物としてわたしたちに着せられるという思想は、尊い思想である。神と人の敵はこの真理が明白に提示されることを望まない。なぜなら、彼はもし人がこれを完全に受け入れるならば、自分の力が打ち破られることを知っているからである。」（福音宣伝者 161）

「キリストの義の恵みは、罪人の側の功績や権利なしに、彼を無償で義とする。義認とは十分で完全な罪の許しである。罪人が信仰によってキリストを受け入れる瞬間、その瞬間に彼は許される。キリストの義が彼に着せられ、彼はもはや神の許しの恵みを疑わないのである。」（信仰によってわたしは生きる 107）

4. 値しない恩寵

- a. 神は人類を救うために、どのような値しない恩寵を示されましたか（ヨハネ第一 4:14; ルカ 2:11）。

「わたしたちが初めにこのお方を愛したのではなく、神がわたしたちを愛してくださるのである。しかし、『まだ罪人であった時』キリストはわたしたちのために死なれて、わたしたちの贖いのために十分に豊かな備えをなされた。わたしたちの不従順によって、わたしたちは神のご不興と有罪宣告にふさわしい者となったにもかかわらず、このお方はわたしたちをお捨てにならなかった。……キリストを自分の個人的な救い主と信じ、わたしたちは『わたしたちを愛して下さったかたによって』『勝ち得て余りがある』者となることができる（ローマ 8:37）。」（神の驚くべき恵み 10）

「わたしたちが罪を犯したとたん、そこには救い主がおられた。キリストはご自分が苦しまなければならないことをご存じであった。それでいながら、このお方は人の身代わりとなられた。アダムが罪を犯したとたんに、神の御子は人類のための保証人としてご自身を提供されたのである。」（天国で 13）

「イエスは罪なく、死に値することは何もされずに死なれた。罪人は救いに値することを何もせずに救われる。彼はまったく功績がない。しかし、しみのないキリストの義の衣をまとうて、彼は神に受け入れられるのである。」（バイブル・エコー 1900 年 5 月 21 日）

- b. 神はご自分の驚くべき恵みにより、何を滅ぼされますか（ローマ 8:2; ヨハネ第一 3:5, 8; テモテ第二 1:10）。

「十字架上のキリストの死は、死の力を持つ者、罪の創始者であった者の破滅を確かなものとした。サタンが滅ぼされるとき、そこには悪に誘惑する者はいなくなる。贖罪が二度と繰り返される必要はない。そして神の宇宙において再び反逆が起こる危険性はなくなるのである。この闇の世において唯一効果的に罪を抑制できるものが、天において罪を防ぐ。キリストの死の意味を聖徒たちと御使たちが知ようになる。世のはじめからほふられた小羊がなければ、墮落した人類は神のパラダイスを住まいとすることはできなかった。」（バイブル・コメントリ [E・G・初作・コメントリ] 5 巻 1132）

「キリストが『すべて信じる者たちの間で驚嘆される』ために二度目に来られるとき（テサロニケ第二 1:10）、死は勝利のうちにのみこまれ、そこにはもはや病気も、悲しみも、死もないのである！」（彼を知るために 362）

5. 無償の賜物

- a. 聖書は世に対する神の恵みの契約をどのように述べていますか (エペソ 2:4-8; ローマ 5:15, 16, 18)。

「天に入る人々はその壁を自分の義で測ったり、あるいはその門が高価な金銀の捧げ物のために彼らに開かれたりはしない。そうではなく、彼らはキリストの十字架の功績を通して、御父の家の多くの住まいへ入るのである。」(神の驚くべき恵み 179)

- b. 罪人はどのようにイエス・キリストを通してこのような無償の救いの賜物を手に入れるのですか (ローマ 5:17; ヨハネ 1:12; ヘブル 11:8)。

「キリストが贖罪の犠牲であることを信じるすべての人は、来て、自分たちの罪のための許しを受けることができる。なぜなら、キリストの功績を通して、神と人の間の通信が開かれたからである。神はわたしをご自分の子として受け入れることがおできになる。そしてわたしはこのお方をわがものと主張し、わたしの愛する御父としてこのお方のうちに喜ぶことができる。わたしたちはキリストだけに自分たちの天の希望を集中させなければならない。なぜなら、このお方がわたしたちの身代わりであり、保証人だからである。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 363)

『彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである』(ヨハネ 1:12)。この力は人間には備わっていない。それは神の力である。魂はキリストを受け入れるとき、キリストのような生活を送る力を受ける。」(キリストの実物教訓 294)

「真の信仰は、約束された祝福が、実現しそれを感じることができる前に、それをつかんで 自分のものとする。」(初代文集 151)

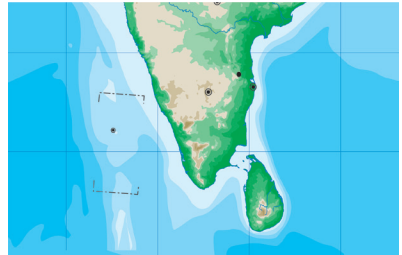
個人的な復習問題

1. なぜだれひとり人間は神の恵みを受ける価値がないのですか。
2. なぜわたしたちは恵みによってのみ救われるということを理解することが重要なのですか。
3. なぜだれも自分の信仰を誇ることができないのですか。わたしたちの信仰はどのように成長しますか。
4. 神の恵みを通して、わたしたちはどの二つのことから自由になりますか。またそれはなぜですか。
5. 神の無償の賜物を手に入れるために、わたしたちはどれくらいの善行をしなければなりませんか。

第一安息日献金

インド、ベンガルルにおける礼拝堂のために

ベンガルル（旧バンガロール）は、カルナタカ州の首都です。第五番目の都市で、1100 万人の人口がいます（2016 年）。ベンガルルは、国家の先進情報技術の輸出者という役割のために、「インドのシリコンバレー」とみなされています。



わたしたちの教会の働きは、2009 年の初期に、一人の兄弟がわたしたちのメッセージに関心を持つ魂のグループと共に、わたしたちの運動に加わりたいと意思表示したときにここで確立されました。現代の真理を通して導かれた後、彼らはキリストの囲いに受け入れられました。

続く数年間、グループは借りている小さな場所で礼拝をしていました。2014 年に教会が大きくなり、初めの賃貸の場所が手狭になったため、彼らはすべての人に十分な部屋のある別の場所を借りて引っ越しました。しかし、集会所は建物の二階にあり、階段でしか上ることができませんでした。集会のたびに上ったり下ったりする必要があるため、高齢の信徒たちには困難になりました。兄弟たちはまた恒久的な礼拝の場所を持ちたいと望みました。そこで、一画の土地を購入するという計画が立てられました。購入するための土地を見つけるということは非常に困難でした。なぜなら、ベンガルルのような都市における土地は非常に高値だからです。人々は職業と事業を見つけるために都市に殺到し、不動産市場は驚くような高騰を引き起こしているからです。しかし、主のみ助けにより、兄弟たちはなんとかふさわしい一画の土地を見つけました。

今度は、兄弟たちはこの「シリコン街」、そこから力強く、失われた人々に福音が発信できる場所に、主のための記念塔を建設することを心待ちにしています。わたしたちは神が天の窓を開き、この事業に祝福の雨を降らせてくださるよう祈っています。

その一方、わたしたちは皆さん、世界中の兄弟方に、わたしたちがこの事業を完成するのを助けてくださるよう、お願いしたいのです。神が皆さんの心を開いて、この第一安息日に心から捧げてくださるようというのがわたしたちの祈りです。皆さんがわたしたちに提供してくださるどんな助けでもベンガルルにいる信徒たちにとっては大きな喜びの手段となることをぜひ覚えてください。またこの事業が実現できますよう、どうぞお祈りしてください。

この安息日にこの事業を惜しみなく支援してくださる皆さんに神が豊かに祝福してくださいますように。

ベンガルルから皆さんの兄弟姉妹より

アブラハムのわざ

「わたしたちの父祖アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげた時、行いによって義とされたのではなかったか。」(ヤコブ 2:21)

「信仰と行ないの関係を理解しない人が多い。『ただキリストを信じなさい。そうすれば、あなたは安全です。あなたは、律法を守る必要はありません』と彼らは言う。しかし、真の信仰は服従にあらわされる。」(人類のあけぼの上巻 160)

推奨文献： 信仰と行ない 47-54, 111-116

日曜日 2月26日

1. 働く信仰

a. アブラハムが神のみ言葉を信じていたということが、どのようにわかりますか(創世記 22:1-5; ヤコブ 2:21-24)。

「アブラハムは神を信じていた。どのように、彼が信じていたことがわかるであろうか。彼の行いが彼の信仰の性質を証していた。そして、彼の信仰は彼に対して義と認められたのである。」(キリストを映して 79)

b. 信仰と行ないの関係は何ですか(ヤコブ 2:17, 18; マタイ 7:16-20)。クリスチャンはどのような種類の実を結びますか。

「善行によって救いを買うことはできないが、しかしそれは、愛によって働き、魂をきよめる信仰の証拠である。」(各時代の希望中巻 25)

「ちょうど良い木が良い実を結ぶように、主の園に実際に植えられた木が永遠の命に至る良い実を産出するのである。からみつく罪は克服される。悪い思想は思いの中で許されない。悪い習慣は魂の宮から清められる。……完全な変化が起こったのである。」(パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 6 巻 1080)

2. 神のわざ

- a. アブラハムは神を信じる自分の信仰をどのように示しましたか。自分の信仰を行動で示したとき、アブラハムは自分の信仰について何を明らかにしたのですか（ヤコブ 2:22; 創世記 22:12）。

「信仰は愛によって働き、魂を清める。信仰は芽を出し、花が咲き、尊い実という収穫を結ぶ。信仰があるところには、良いわざが現れる。」（*セクレット・メッセージ* 1巻 398）

- b. 良いわざはどこからもたらされますか（エレミヤ 17:9; ローマ 3:12; エペソ 2:10; テトス 2:13, 14 参照）。

「本物の信仰は良いわざのうちに表される。なぜなら、良いわざは信仰の実だからである。神が心のうちに働かれ、人が自分の意志を神に明け渡し、神と協力するとき、彼は生活において、神が聖霊によって内に働いておられることを外に働く。そこには心の目的と生活の実践の間に調和がある。すべての罪は、命と栄光の主を十字架につけた憎むべきものとして放棄されなければならない。そして、信徒は継続的にキリストのわざを行うことによって漸進的な経験を持たなければならない。義認の祝福が維持されるのは、継続的な意志の明け渡しによってであり、継続的な従順によってである。」（*セクレット・メッセージ* 1巻 397）

「もしわたしたちが自分の分を果たすのに、すなわちこのお方と協力するのに忠実であるならば、神はわたしたちを通してご自分のみ旨のよしとされるところを実現に至らせて下さる。しかし、神はもしわたしたちが何の努力もしないなら、わたしたちを通して働くことがおできにならない。もしわたしたちが永遠の命を得たいなら、わたしたちは働かなければ、しかも熱心に働かなければならない。……わたしたちはキリストがわたしたちに残された模範に従い、万事につけこのお方に屈服しなければならない。わたしたちの意志はこのお方のご意志と調和していなければならない。」（*レビュー・アンド・アワード* 1901年6月11日）

- c. クリスマスが神のわざを生み出すことができる前に、まず最初に何が起こらなければなりませんか（エペソ 2:1-5; ガラテヤ 2:20; エレミヤ 29:13）。

「わたしたちが神の助けを得ることができる唯一の方法は、自らを完全にこのお方のみ手のうちに置き、このお方がわたしたちのために働いてくださると信じることである。わたしたちが信仰によってこのお方をつかむとき、このお方はわざを成してください。信徒はただ信頼することができるだけである。神が働かれるとき、わたしたちは神に信頼し、このお方のみ旨を成しつつ、働くことができる。」（*パイブル・コメント* [E・G・ホフ・コメント] 6巻 1080）

3. 死んだ信仰

- a. 生きた信仰と死んだ信仰の間にはどのような違いがありますか（ヤコブ 2:19, 20; マルコ 7:6, 7）。

「真の信仰、すなわち完全にキリストにより頼む信仰は神のすべてのご要求に対する従順によって表される。……各時代において、神のご命令のいくつかを無視しながら、神の恩寵に対する権利を主張する人々が存在してきた。しかし、聖書は、行いによって『信仰が全うされ』、従順という行いがなければ信仰は『死んだもの』だと宣言している（ヤコブ 2:22, 17）。」（信仰によってわたしは生きる 91）

「多くの人々は口先だけで満足している。真心からの真剣で愛情深い神をしたう心を持っている者はわずかしかない。」（教会への証 4 巻 534）

- b. 死んだ信仰を持っている人が、良いわざを結ぶことができますか（マタイ 23:27, 28; 7:21-23）。

「良い人は、心の良い宝から、良いことを生み出す。なぜであろうか。なぜなら、キリストが魂のうちに宿っておられるからである。聖化する真理は真理を実践するすべての人にとって知恵の宝庫である。生ける泉のように、それは永遠の命へと湧き上がる。キリストが心のうちに宿っていない人は安っぽい会話や大げさな表現にふけり、それが人を悩ませる。歪んだこと、俗っぽいこと、俗語を口にする舌は、えにしだの熱い炭をもって取り扱われる必要がある。」（思い、品性、個性 2 巻 577）

「だれも人生のあらゆる関係と義務によりよく忠実になることなくキリストの霊と思をもつことはできない。つぶやき、文句、いらだった感情は良い原則の実ではない。」（教会への証 4 巻 347）

- c. 死んだ信徒の行いには、いつも何が欠けていますか（ヨハネ第一 4:20, 21; ヨハネ 8:37-41）。

「みことばに従うことによって、要求されている実、すなわち『偽りのない兄弟愛』という実を結ぶ。この愛は天から生まれ、高尚な動機や無私の行動へと至る。」（患難から栄光へ下巻 219）

4. 実か、あるいは根か

- a. 従順という良い行いがクリスチャン経験の実である代わりに根となったら、何が起こりますか (マタイ 23:5)。

「パリサイ人は、儀式を綿密に行い、礼拝と慈善行為を誇示して榮譽を得ようとした。また宗教を論争の話題とすることによって、宗教に対する熱意を証明した。相反する教派間の論争がそうぞうしく長時間続いたり、学識のある法学博士が怒声をあげて争論している声を街路で耳にするのはめずらしいことではなかった。

イエスの生涯はこうしたすべてのものと非常な相違を示し、その生涯には一度として騒がしい争論も、はでな礼拝も、人に称賛されるための行為も見られなかった。キリストは神の中にかくれ、そのみ子の品性の中には神があらわされていた。」(ニコストリー・オブ・ヒーリング^{*} 13, 14)

- b. クリスチャン経験の根に、いつも何があるべきですか (ガラテヤ 6:14)。

「御使たちはキリストに誉と栄光を帰す。なぜなら、彼らは神の御子の苦難を見ることによらなければ安全でさえないからである。……十字架がなければ、彼らはサタンの墮落以前の御使たちと同様に、悪に対して安全ではない。……地においても天でも、安全を望むすべての人は、神の小羊を見なければならない。……

もし人が十字架で表されたキリストの愛を熟考するならば、彼らの信仰は、このお方の流された血の功績を自分のものとするために強められ、彼らは罪から清められて救われるのである。」(バプトル・コメント [E・G・ホト・コメント] 5 巻 1132, 1133)

- c. 真のクリスチャンはキリストのわざという光のうちに、自分自身のわざを、どのようにみなしますか (ピリピ 3:4-9; イザヤ 6:5)。

「[神に従う者たち] がキリストの品性を見れば見るほど、ますます謙遜になり、自分自身に対する評価はますます低くなる。……自分自身の無価値さと神の素晴らしい栄光を自覚して、自己は見失われる。」(彼を知るために 122)

5. 実り多いクリスチャン

- a. なぜ神は、変えられた心から生まれる良い行いで、クリスチャンの生涯を満たしたいと望んでおられるのですか（マタイ 5:14-16; ペテロ第一 2:9）。

「大いなる救いにあずかった者がすべて、主のための伝道者になるように神は計画された。クリスチャンの敬神深さを標準にして、世の人々は福音を評価する。忍耐強く試練に耐え、感謝して祝福を受け、柔和、親切、あわれみ、愛を習慣的にあらわすことなどが、世の人々の前で、品性から輝き出る光であって、生まれつきのままの心の利己心から出る暗黒との相違を示す。」（人類のあけぼの上巻 134）

「キリストの恵みが信徒たちの言葉と行いに表現されるとき、光が闇の中にいる人々に向かって輝き出る。なぜなら、唇が神の賛美を語っているときに、手は減びつつある人々を助けるために慈善のうちに延ばされるからである。」（神のむすこ娘たち 276）

- b. 歴史を通じて、キリストはいつもご自分の教会に関してどの知識を持っておられますか（黙示録 2:2, 9, 13, 19; 3:1, 8, 15）。なぜイエスはご自分に従う人々のわざにこれほどの関心を持っておられるのですか（ヤコブ 2:21, 22, 24; 黙示録 22:12）。

「世の目はわたしたちに向けられている。そしてわたしたちは自分たちの知らない多くの人々によって観察されている。わたしたちが信じると公言する教理を幾分か知っている人々がいる。そして彼らはわたしたちの信仰がわたしたちの品性に及ぼす効果に注目しているのである。」（エレキッド・メッセージ 2 巻 386）

「今日、世はキリスト・イエスの聖徒たちのうちにこのお方の啓示を緊急に必要としている。」（天国で 313）

個人的な復習問題

1. 真の信仰はなぜいつも働くのですか。
2. わたしたちはどのように、自分の行いがいつも神からだと確かめることができますか。
3. なぜ改心していない心は、決して無我の愛を生み出すことができないのですか。
4. わたしたちの経験の根と実の違いを説明しなさい。
5. 神と世は、クリスチャン教会のうちに何を見るために待っていますか。

アブラハムの救い主

「あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでた。そしてそれを見て喜んだ。」(ヨハネ 8:56)

「神は、型と約束によって、『アブラハムに……良い知らせを、予告したのである』(ガラテヤ 3:8)。そしてアブラハムの信仰は、来臨される贖い主に集中された。」(人類のあけぼの上巻 160, 161)

推奨文献： 各時代の希望下巻 272 – 285; 314 – 319

日曜日

3月5日

1. キリストの型

a. イサクはどなたの型でしたか(創世記 22:7-9; ヘブル 11:17-19)。

「イサクは神の御子、すなわち世の罪のために犠牲として捧げられたお方の型であった。神はアブラハムの心に人に対する救いの福音を印象づけようとなさった。そうするために、そして真理を彼の信仰を試すと共に、彼にとって真理を現実的なものとするために、このお方は自分の愛しいイサクを殺すように要求された。アブラハムが暗く恐ろしい試練を通して耐えたすべての悲しみと苦悩は、彼の理解力に墮落した人類のための贖いの計画を深く印象づけるという目的のためであった。彼は自分自身の経験において、人類を完全な破滅から救出するため無限の神がご自身の御子を死に渡されることにおいてその自己否定がいかに完全であったかを理解させられたのであった。」(教会への証 3 巻 369)

b. 神はキリストの日を、どのようにアブラハムに表されましたか(創世記 22:13; ヨハネ 1:29; イザヤ 53:7)。

「神は罪人を永遠の滅びから救うためにひとり子をお与えになることによって、人間がなし得るよりもっと大きな、そしてもっとすばらしい犠牲を払おうとしておられるのだということを、〔アブラハム〕は示された。」(各時代の希望中巻 260)

2. 最高の犠牲

- a. 神がご自分のひとり子をお与えになることによって払われる大きな犠牲の深さを、どのようにアブラハムに明らかにしようとされたかを述べなさい（創世記 22:11, 12, 16; ヨハネ第一 4:9, 10）。

「わたしたちの天父は、ご自分の愛する御子を十字架の苦悩に明け渡されたのであった。天使の万軍が神の御子の屈辱と魂の苦悩を目撃したが、イサクの時のように介入することは許されなかった。犠牲をとどめるための声は聞かれなかった。神のいと子、世の贖い主は侮辱され、嘲られ、嘲笑され、拷問され、ついに死のうちにご自分の頭を垂れられた。無限のお方はこれより大きなご自分の神聖な愛と憐れみの証拠をどのようにわたしたちに与えることがおできになるであろう？」（彼を知るために 20）

「あの恐ろしい試練の暗黒の数日間の苦悩は、人類の贖罪のために払われた無限の神の大犠牲を、アブラハムが自分の体験によって学ぶために神が許されたのである。」（人類のあけぼの上巻 161）

- b. イエスは、イサクが知っていたように、全世界のための犠牲として自分を捧げ渡しておられたのが御父だということを、どのようにご存じだったか説明しなさい（創世記 22:10; マタイ 26:38, 39; ペリピ 2:8）。

「イエスは天のご自分の住まいを後にし、人類の苦悩の一番の深さに到達するためにこの暗い世に来られた。それは滅びるばかりの人々を救うことができるためであった。」（バイブル・エコー 1893 年 1 月 1 日）

- c. イエスの最高の犠牲のときに苦しまれた最大の苦痛は何でしたか（詩篇 69:18-21; イザヤ 53:4, 10, 12）。

「キリストの苦悩をこれほどまでに激しいものとしたのは、神の恩寵からの分離という苦悩であった。……この必要な時に神がご自分をお捨てになったという思想によって引き起こされたこのお方の恐ろしい苦悩は、遅すぎる時になって罪人が神の御霊が自分から引き上げられるのを悟るときに感じる苦悩を描写している。」（思い、品性、個性 2 巻 464, 465）

3. 罪のために捨てられる

- a. キリストはなぜ捨てられ、イサクは捨てられなかったのですか(創世記 22:12; マタイ 27:42, 43, 46; ヨハネ 3:17; 12:27; コリント第二 5:21)。

「天使たちは自分たちの愛する司令官に同情した。彼らは喜んで自分たちの隊列を離れて、このお方を支えるために行ったことであろう。しかし、これは神のご計画ではなかった。」(上を仰いで 223)

「自発的に、わたしたちの神聖な身代わりなるお方はご自分の魂を正義の剣に対してあらわにされた。それはわたしたちが滅びることなく、永遠の命を得るためであった。」(セクレット・メッセージ 1 巻 322)

- b. アブラハムの僕たちは後に残り、父親と息子だけが共に祭壇へ行ったことにはどのような重要な意味がありますか(創世記 22:3-5, 8; ヨハネ 16:32)。

「天使たちは救い主の絶望的な苦悩を驚きの念をもって見た。天の万軍はこの恐るべき光景に顔をおおった。あなどられて死んでいかれる創造主に非情の自然界さえ同情を表わした。太陽はその恐るべき光景を見るのをこぼんだ。太陽の豊かな、明るい光線が真昼の地上を照らしていたが、突然にその光がかき消されたようにみえた。葬式の黒布のように、真の暗やみが十字架を包んだ。……

神は、み子の人間としての最後の苦悩を、深いやみのなかにおおいかくされた。……天父はみ子と共におられた。しかし神のご臨在はあらわされなかった。もし神の栄光が雲からひらめきわたったら、見ている人間はみな滅ぼされたであろう。しかもキリストは、この恐るべき時に、天父のご臨在によって慰めを受けられないのであった。」(各時代の希望下巻 275, 276)

- c. わたしたちはどのようにキリストが捨てられたが、失われたのではなかったことがわかりますか(イザヤ 54:7, 8; 使徒行伝 2:22-24, 27; コリント第一 15:55-57)。

「イエスは墓の中に横たえられた。このお方は墓の闇のうちに入られ、すべての人のために死を味わわれた。しかし、このお方は長く敵の力の下にとどまっておられなかった。力強い天使が天から来て、墓の石を転がし去った。……キリストは墓から勝利した征服者として出てこられ、多くのとりこをその墓から導き出された。」(サインズ・オブ・タイムズ 1889 年 11 月 25 日)

4. よみがえられた救い主

- a. アブラハムがどのように復活の力を信じていたことかを述べなさい（創世記 22:5; ヘブル 11:19）。

「このむすこ〔イサク〕は、予期しないのに与えられた。尊い賜物を与えたかたは、ご自分の与えたものを取りもどす権を持たれないであろうか。すると信仰は、約束をくりかえす。『イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう』。彼らは海辺の砂のように無数になる。イサクは奇跡の子であった。であるから、彼に生命を与えたかたは、復活させる力があるのではないか。アブラハムは、目に見えるもののかたをながめて、『神が死人の中から人をよみがえらせる力がある』と神の言葉を理解した（ヘブル 11:19）。」（人類のあけぼの上巻 156）

- b. キリストの死と復活は人類にとって何を意味するかを説明しなさい（ヘブル 2:14, 15; テモテ第二 1:10; ローマ 6:5）。

「神のみ子が死人に生きよとお命じになる時、サタンは彼らをつかまえておくことができない。サタンは、キリストの力のみことばを信仰をもって受け入れる魂をひとりも霊的な死のうちにとらえておくことができない。罪のうちに死んでいるすべての者に向かて、神は、『眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい』と言われる（エペソ 5:14）。このみことばこそ、永遠のいのちである。」（各時代の希望中巻 35）

- c. 信徒たちにとって、死に対するキリストの勝利は、どれほど重要ですか（コリント第一 15:12-19; ペテロ第一 1:3; ヨハネ 11:25, 26）。

「イエスの復活の時に墓から導き出されたとりこたちは、征服された君としてこのお方の戦利品であった。こうしてこのお方は死と墓に対するご自分の勝利を証明された。こうしてこのお方はすべての死んだ義人の復活の誓約と保証をお与えになったのであった。」（バブル・コメンタリ [E・G・ホバ・コメンタリ] 15 巻 1109）

「ご自分の聖徒たちを墓からよみがえらせ、不死をまわせて、死と墓に対する永遠の勝利を与えることの……できる……このお方だけが、今、ご自分にゆだねられたすべての人の魂をかの日に至るまで守り、また彼らをその困惑から救出することがおできになるのである。」（原稿リ-ス 21 巻 273）

5. 救いの喜び

- a. アブラハムは、神がキリストを罪と死に対する救い主として明らかにされたときに、どのように感じましたか (ヨハネ 8:56)。なぜ、クリスチャンは世界で最も喜びに満ちた民となるはずなのですか (ピリピ 4:4; 使徒行伝 2:25-27; テサロニケ第一 5:16)。

「もっとも落胆するような状況下にあるとき、それは中途半端なクリスチャンには意気消沈させる感化力を及ぼすようなものであったが、彼の心は堅固で、勇気と希望と励ましに満ちて叫んだ、『あなたがたは、主にあつていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい』(ピリピ 4:4)。同じ希望と快活さが、船上のデッキにいて、嵐が彼のまわりに打ちつけ、船が微塵に碎かれようとしているときにも見られる。彼は船長に命じ、船上にいるすべての人の命を守った。彼は囚人であったにもかかわらず、実際的には船の主人であり、船上にいる人々の中でもっとも自由で幸福な人であった。」(今日のわたしの生涯 334)

- b. なぜ主を賛美し、ほめたたえることが、わたしたちの信仰の重要な部分なのですか (詩篇 98:1-6; 95:1-8; 黙示録 15:2-4)。

「イスラエルの人々が荒野を旅しているとき、歌によって多くのとうい教訓が心にきざみこまれた……

こうして彼らの思いは、道中の試練や困難から高められ、落ちつきのない不穏な精神が和らげられ静められ、真理の原則が記憶にきざみこまれ、信仰が強められた。」(教育 32)

「もしわれわれが、今もっと神を賛美するならば、希望と勇気と信仰が増しつづけることであろう。」(国と指導者上巻 168)

個人的な復習問題

1. イサクはどのような方法においてキリストの型でしたか。
2. アブラハムの経験はどのように神の犠牲の深さを表していますか。
3. なぜキリストは捨てられる時に感じることを経験しなければならなかったかを説明しなさい。
4. 復活は、クリスチャンにとって何を意味しますか。
5. 意気消沈に対する最上の治療法は何ですか。

アブラハムの忍耐

「主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。(そうすればこのお方があなたの心を強められる。) 主を待ち望め。」(詩篇 27:14)

「わたしたちが困惑のうちにあるとき、わたしたちが自分の悲嘆をこのお方に打ち明ける前でさえ、〔神は〕わたしたちの救出のために手配しておられる。」(わたしたちの高い召し 316)

推奨文献： キリストへの道 126-144
わたしたちの高い召し 315-319

日曜日 3月12日

1. 心の願い

- a. 何がアブラハムの心の願いでしたか(創世記 15:1-3)。神を信じる人々に、神は何を約束なさいますか(詩篇 37:4, 5; マタイ 21:21, 22)。

「神のみ言葉の中にあるすべての約束はわたしたちのためである。あなたの祈りの中で、エホバの誓いの言葉を差し出し、信仰によってこのお方の数々の約束をわがものと主張しなさい。このお方のみ言葉は、もしあなたが信仰のうちに求めるならば、すべての霊的な祝福を受けるという保証である。求め続けなさい。そうすればあなたはあなたが求めたり考えたりする一切をはるかに超えて豊かに受けるであろう。制限なく神への信頼を持つよう自らを教育しなさい。あなたのすべての思い煩いをこのお方へゆだねなさい。このお方を忍耐強く待ち望みなさい。そうすればこのお方はそれを実現してくださる。」(天国で 71)

- b. わたしたちの心の願いを満たしてくださるよう神に祈るとき、わたしたちの要求にはいつも、他に何が含まれているべきですか(ヤコブ 4:13-15; マタイ 26:39)。

「堅実な方法は全知なる天の父に自己の願いを任せ、全き信頼をもってすべてをゆだねることである。神のみこころに従って求めるならば、神はおききあげになるということをわたしたちは知っている。それなのに神にゆだねる気持がなく、あまりくどく求めるのはよくない。わたしたちの祈りは命令の形でなく、懇願の形でなければならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 208)

2. 思ったよりも長く待つ

- a. 神はアブラハムが自分の要求を言い終えるや否や、どのようにその祈りに答えてくださったか説明しなさい(創世記 15:3, 4)。

「アブラムには息子がいなかったため、彼はまず自分の信頼のおける僕、エリエゼルが養子によって自分の息子となり、相続人になるべきだと考えた。しかし、神はアブラムに彼の僕が彼の息子や相続人になるべきなのではなく、彼が実際に息子を持つべきことを知らされた。」(霊的賜物 3 巻 100, 101)

- b. 神が直ちにアブラハムに息子を約束されたにもかかわらず、なぜこのお方は初めにアブラハムの息子が生まれることになる日を明らかにされなかったのですか(使徒行伝 1:6, 7; 箴言 16:9; 詩篇 34:8)。

「主はご自分がなされた約束に対するアブラムの堅固な信仰と信頼を試そうと意図された。」(霊的賜物 3 巻 101)

「わたしたちはこの世ですべてが日光であることを期待するには及ばない。雲や嵐がわたしたちの周りにひしめくであろう。そしてわたしたちは自分たちの目を最後に光を見たところへ向け続けている準備をしていなければならない。その光線は隠されるかもしれないが…なお雲の向こうで輝いているのである。待ち、見張り、祈り、信じることがわたしたちの働きである。わたしたちは雲が消えた後に、日光をさらに尊ぶようになる。わたしたちはもし光の中にいる時と同じように闇の中にいる時も神に信頼しているならば、神の救いを見るのである。」(わたしたちの高い召し 318)

- c. 祈りが期待しているときに答えられないとき、わたしたちはどのような危険のうちにいますか(コリント第一 10:9, 10; ヘブル 3:12-14)。それはどこへ導きますか(創世記 16:1-6)。

「わたしたちの祈りが聞かれないように見えるときも、み約束にかく頼らねばならない。なぜならば、祈りが答えられるときが必ずきて、わたしたちが最も必要とする祝福を受けることができるからである。けれども、祈りはいつもわたしたちが望む通りの方法で答えられ、または、望んでいるそのものが必ず与えられると考えるのは、憶測である。知恵にみちた神は、決して誤られることがなく、また、正しく歩む者に良きものを拒まれることはない。であるから、たとえ祈りがすぐ答えられなくても、このお方に信頼することを恐れてはならない。『求めよ、そうすれば、与えられるであろう』(マタイ 7:7) という神のかたいみ約束に頼りなさい。』(キリストへの道 132)

3. 信仰に報いてくださるお方

- a. 神はどの二つのことを信じるように望んでおられますか（ヘブル 11:6）。アブラハムのはじめに示したことは何でしたか（創世記 15:4-6）。

「われわれは、神がみことばをなしとげてくださるかどうかをためすために祈願をささげるべきではなく、神がみことばをなしとげてくださるから、また神がわれわれを愛されるかどうかをためすためではなく、神がわれわれを愛されるから、祈願をささぐべきである。」（各時代の希望上巻 140.141）

- b. 神がイシマエルを約束された子孫としては拒まれたことから、どのように時間が、神がご自分の約束を果たされることを信じるアブラハムとサラの信仰に影響を与えましたか（創世記 17:15-18; 18:9-12）。

「アブラハムは、百才近くなったときに、むすこが与えられる約束がくり返し与えられ、将来の世継ぎはサラの子でなければならないという確証が与えられた。しかし、アブラハムは、まだ約束を理解しなかった。彼は、直ちに、イシマエルのことを考え、彼によって神の恵み深いみこころが成就するという考えを捨てなかった。」（人類のあけぼの上巻 151）

- c. すべての応えられる祈りには何が付随してきましたか（創世記 18:14, 21:1, 2）。わたしたちはいつも自分たちのタイミングと比較した神のタイミングについて、何を覚えているべきですか（ハバクク 2:3）。

「すべての真心からの祈りには答えがもたらされる。それはあなたが望む通りに、あるいはあなたが待っている時には来ないかもしれない。しかし、それはあなたの必要に最もよく答える方法と時にもたらされるのである。あなたが孤独のうちに、弱っている時に、試練の時に捧げた祈りに、神は、いつもあなたの期待どおりではないが、いつもあなたの善のために答えてくださるのである。」（福音宣伝者 258）

「神はいつもわたしたちが神に呼び求めた最初の時に祈りに応えてくださるとは限らない。なぜなら、もしそうするならば、わたしたちがこのお方の授けてくださった祝福や恩寵のすべてにあずかる権利が自分にあると受け取るかもしれないからである。自分たちが抱いている悪が何かありはしないか、何かの罪にふけっていないかを調べるために自分の心を探る代わりに、わたしたちは不注意になり、自分たちが神に依存していること、またこのお方の助けを必要としていることを自覚しなくなるからである。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1913 年 3 月 27 日）

4. 忍耐の必要

- a. なぜ神はいつも祈りの成就が直ちに起こることを許されないのですか（ヤコブ 1:2-4; ローマ 8:24, 25）。

「だれでも自分の祈りが即座に、また直接にこたえられることを望み、そのこたえが遅れたり、期待に反した形であたえられると失望するが、神は賢明、かつ最善なお方で、わたしたちが望むときに、望むように、いつでもこたえるということはなさらないのである。しかしわたしたちの希望が全部かなえられるよりもっとよい方法をとってくださるのである。わたしたちは神の知恵と愛を信頼できるようになるため、わたしたちの願いを認めたまえと祈るのではなく、神のみ心を知り、それを果すように務めなければならない。自分の要求や興味を神のみこころを考える気持で忘れてしまわなければならない。信仰をためすこうした体験は我々を益し、それによって自分の信仰が真実であり、神のみ言葉の上に堅くたった信仰であるか、それとも事情が変れば動揺し、不安定で変りやすいものかどうかが判然するものである。信仰は働かすことによって強くなる。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 208,209）

- b. 必ずしもわたしたちが考えるとおりに成就しないと、どのようにわたしたちは神の約束に対して保証を得ることができますか（ヘブル 6:13-18; イザヤ 55:8-11; 詩篇 27:14）。

「信仰のうちに働き、結果は神にゆだねなさい。信仰のうちに祈りなさい。そうすればこのお方のみ摂理の神秘がその答えをもたらす。時に、あなたは成功できないように見えるかもしれない。しかし、働いて信じ、あなたの努力に信仰と希望と勇気を持ち込みなさい。自分にできることをした後に、主の忠実さを宣言しつつ、このお方を待ち望みなさい。そうすればこのお方はご自分の言葉を実現してくださる。いらだった不安のうちではなく、不屈の信仰と揺るがない信頼をもって、待ちなさい。」（教会への証 7巻 245）

「主を待ち望みなさい。繰り返す言うが、主を待ち望みなさい。わたしたちは人間に求めても受けないことがあるかもしれない。わたしたちは神に求めることができ、このお方は、あなたは受けるといわれる。であるから、あなたはだれを見るべきかを知るのである。あなたはだれに信頼すべきかを知るのである。あなたは人間に信頼し肉を自分の頼みとしてはならない。好きなだけの重さをかけて『わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ（そうすればわたしとやわらぎを得る）』と言われる力あるお方に寄りかかりなさい（イザヤ 27:5）。それから自分の顔を絶えず義の太陽に向け続けながら、待ち、見張り、祈り、働きなさい。」（キリストを映して 119）

5. 聖徒たちの忍耐

- a. どの特徴が神の残りの民を描写していますか（黙示録 14:12）。なぜ、クリスチャンのはしごの最上段にある愛は述べられていないのですか（ペテロ第二 1:5-7; ヤコブ 5:7, 8）。

「最後に勝利を得るのは、着実な目的、倦むことのない努力である。救われるのは、最後まで耐え忍ぶ人である。永遠の命と不朽の報いを得るのは善行を忍耐強く続ける人々である。……サタンとその軍勢とのこの戦いに携わるすべての人の前には徹底的な働きがある。彼らは火が溶かしてどんな形にでもしてしまう蠟のように影響を受けやすいものであってはならない。彼らは自分たちの持ち場に立ち、いつの時も真実である忠実な兵士たちのように困難に耐えなければならない。」（教会への証 2 巻 101, 102）

- b. わたしたちの主の来臨にわたしたちを準備させるために、神がどのようにわたしたちの現在の試練を用いておられるか説明しなさい（ヘブル 10:35-39; マタイ 25:5; 24:13, 42-44）。

「最終的に勝利者となるすべての魂の宗教生活には、恐るべき困惑と試練の時があるであろう。しかし、彼の聖書の知識は、彼が励ましを与える神の約束を思い出すことができるようにし、それが彼の心を慰め、力あるお方の力を信じる信仰を強めるのである。……信仰の試練は金よりも尊い。すべての人はこれがキリストの学校における訓練の一部であることを学ぶべきである。それは彼らを地のかすから清め、精錬するのに不可欠なのである。」（神の驚くべき恵み 81）

個人的な復習問題

1. 神はわたしたちの心の願いをすべてかなえてくださるでしょうか。
2. すべての祈りが自分の考えとおりに答えられないとき、わたしたちはどのように反応すべきでしょうか。
3. なぜ「時」がわたしたちの信仰にとって最大の挑戦となりえるのですか。
4. インスタント技術の世界にいて、わたしたちはどの特性を培う必要がありますか。
5. なぜ神のみ言葉を信じる忍耐強い信頼を発達させない人は倒れ去るのですか。

罪人のために嘆願する

「かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである。」（ヤコブ 5:20）

「熱心で自己犠牲的な男女が必要とされている。すなわち神のみ許へ行き、強い叫びと涙とをもって破滅の淵にいる魂のために嘆願する人々が必要とされている。」（福音宣伝者 26）

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 163 – 180

日曜日

3 月 19 日

1. ソドムとゴモラ

a. ソドムとゴモラの町はどのような刑罰を受けましたか（創世記 19:24, 25; ルカ 17:29）。

「主は、天から硫黄と火とを、町々や豊かな平野に降らされた。王宮と神殿、ぜいたくな邸宅、庭園、果樹園、そしてつい前夜、天の使いを侮辱し、快樂を求めて陽気にさわいでいた群衆のすべてが焼き尽くされた。」（人類のあけぼの上巻 172）

b. ソドムとゴモラはだれにとって実例ですか（ペテロ第二 2:6; ユダ 7）。

「平原の町々を焼き尽くした炎は、われわれの時代にまで警告の光を投げている。神は、罪人をあわれみ、長く忍ばれる。しかし、人間はある定められたところ以上に罪を犯し続けることはできないという恐ろしく厳粛な教訓が教えられた。その限界に達するときに、あわれみの招きは取り去られて、刑罰のわざが始まる。……

ソドムの運命は、公然と罪を犯す人だけでなく、天からの光と特権を軽んじるすべての人々に対

する厳粛な訓戒であると救い主は警告された。」（同上 172, 173）

2. アブラハムの嘆願

a. アブラハムの甥であるロトはどこに住んでいましたか（創世記 13:10-13; 19:1）。

「肥沃で美しい『主の園』のような平原にあつて、ソドムは、ヨルダンの谷間の町々のなかで、最も美しい町であつた。ここには、熱帯植物が繁茂していた。」（同上 163）

b. 主がアブラハムにソドムとゴモラを滅ぼそうとしておられることを明らかにされたとき、アブラハムはどのように間接的にロトの家族のためにとりなしましたか（創世記 18:22-32）。

「信仰のあつた彼は、ソドムの住民のためにとりなした。〔アブラハム〕は、剣によって彼らを救つたことがあるが今度は祈りによって彼らを救おうとした。……

彼は、深い尊敬と謙虚な心で訴えた。……自信や自己の義を誇る心はなかった。彼は、自分の服従とか神のみこころを行なうための犠牲とかを理由にして、恵みを求めたのではない。彼は、自分自身罪人であるが、罪人のために哀訴した。神に近づく人々は、すべてこのような精神をもたなければならない。アブラハムは、愛する父親に訴える子供のような確信をあらわした。彼は、天の使者のそばに近づいて熱心に訴えた。……アブラハムは、人口の多いこの町に、真の神の礼拝者がほかにあるにちがいないと思った。……アブラハムは一度だけでなく何度も願つた。願いが聞かれるにつれて大胆になり、もし、十人の義人がソドムにいたならば、町は救われるという確証をついに得た。

アブラハムは、滅亡にひんした魂への愛に動かされて祈つた。彼は、腐敗したソドムの町の罪はきらつたが、罪人が救われることを願つた。アブラハムがソドムのために抱いた深い関心は、われわれが悔い改めていない人人に対して感じなければならない切実な思いを示している。われわれは、罪を憎まなければならないが、罪人には、あわれみと愛を持たなければならない。われわれの回りには、ソドムにのぞんだのと同じように、希望なく恐ろしい破滅に陥っている魂がある。毎日、だれかの恵みの期間が閉じている。毎時間、だれかが恵みのとどかないところへ移っていく。それなのに、恐ろしい運命をさけるように罪人に訴え、警告する声はどこにあるのだろうか。罪人を死から引き返すためにどこに救いの手がさしのべられているだろうか。けんそんに、しかも忍耐強い信仰をもって、罪人のためにとりなす人はどこにあるだろうか。」（同上 142, 143）

3. 答えられた祈り

- a. 神がどのようにロトを救ってほしいというアブラハムの祈りにお答えになったかを説明しなさい（創世記 19:1-3, 12-16, 27-29）。

「ロトは悲しさのあまりぼうぜんとしてしまい、行くに行かれずぐずぐずしていた。神の天使がいなかったならば、彼らはみな、ソドムの滅亡とともに死んでしまったことであろう。天からの使者たちは、ロトと彼の妻と娘たちの手を取って、彼らを町の外に連れ出した。」（同上 169, 170）

- b. わたしたちの祈りに力を与えるために、いつもどの要素を混ぜる必要がありますか（ヘブル 11:6; マタイ 17:14-20; マタイ 9:29）。

「信仰のうちに祈りなさい。そしてあなたの生活をあなたの嘆願に調和させていることを確かめなさい。こうしてあなたが祈っている祝福を得ることができるためである。あなたの信仰が弱まることのないようにしなさい。なぜなら、受ける祝福は、働かせる信仰に比例するからである。『あなたがたの信仰どおり、あなたがたの身になるように』。『祈のとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう』（マタイ 9:29; 21:22）。祈り、信じ、喜びなさい。神があなたの祈りに答えてくださったのだから、神を賛美して歌いなさい。このお方をそのみ言葉通りに信じなさい。『約束をして下さったのは忠実なかたである』（ヘブル 10:23）。真心からの祈りは一つとして失われることはない。」（教会への証 7 巻 274）

「わたしたちは裏切ることのない神の約束をかたくしっかりとつかまなければならない。わたしたちは拒まれることのない信仰、見えないものをつかむ信仰、確固として動かない信仰を持たなければならない。そのような信仰は天の祝福をわたしたちの魂にもたらすのである。」（今日のわたしの生涯 8）

- c. わたしたちは神がいつも義人を救出してくださるという確信を、どのように持つことができますか（ペテロ第一 3:12; 詩篇 145:18, 19; 55:22）。

「最も暗い時に、最も恐ろしい状況下で、クリスチャン信徒は自分の魂をあらゆる光と力の源にとどめておくことができる。日々、神を信じる信仰を通して、このお方の希望と勇気は新たにされることができる。……主はご自分に信頼を置く人々の最高の期待を超えて満たしてくださる。このお方は彼らに様々な必要に応える知恵を与えてくださる。」（同上 55）

4. 魂のために嘆願する

a. イエスの来臨の直前、世界はどのような状態ですか(ルカ 17:28-30; テモテ第二 3:1-6)。

「わたしは世の状態を示された。それは速やかに悪の杯を満たしつつある。あらゆる種類の暴力と犯罪が世に満ちている。そしてサタンは犯罪と低下させる不道徳が広まるようにあらゆる手段を用いている。町を歩く若者たちは、犯罪と罪のビラやニュースに囲まれており、それらは何かの小説で提示され、どこかの劇場で演じられるのである。彼らの思いは罪となじむように教育されている。低俗で邪悪な人々のたどる道が日刊紙の中でいつも彼らの前にあり、好奇心を掻き立て、動物的な情欲を呼び覚ますようなものは何でも胸を躍らせ興奮させるような物語のうちに彼らの前に提示される。

墮落した知性から出てくる出版物がわたしたちの世の何千もの人々の思いを毒している。罪がはなはだしく罪深く見えない。彼らはあまりにも低下させる犯罪や悪を聞いたり、読んだりしており、かつては恐れをもってしり込みしていた敏感な良心があまりにも鈍くなって、人の低俗で不道徳な言葉や行動をむさぼるような関心をもって考えることができるようになるのである。」(教会への証 3 巻 471, 472)

「多大な群衆は神を忘れようと奮闘し、熱心に寓話を受け入れる。こうして彼らが自己放縦の道を邪魔されることなく追及することができるためである。」(パイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメンタリ] 5 巻 1122)

b. わたしたちはアブラハムが持っていたのと同じ祈りの態度をどのように持つべきか説明しなさい(エゼキエル 9:4; ヤコブ 5:16-20)。

「わたしたちは他人を責めるべきではない。これはわたしたちの働きではない。かえって、わたしたちは互いに愛し、互いのために祈るべきである。わたしたちがだれかが真理から外れているのを見るとき、キリストがエルサレムのために泣かれたように、彼のために泣くことができる。」(教会への証 5 巻 345, 346)

「兄弟が道をそれるなら、その時こそ彼に対するあなたの真の関心を示すべき時である。優しく彼のところへ行って、神が彼の贖いのために無限の代価を払われたことを覚えつつ、彼と共に彼のために祈りなさい。このようにしてあなたは魂を死から救い、多くの罪をおおうことができる。」(同上 58, 59)

「自分自身の霊的な衰退に悲しみを感じず、他の人々の罪を嘆かない種類の人々は、神の印のないまま残されることになる。」(同上 211)

5. 保留されている裁き

- a. わたしたちは魂が何からのがれるのを助けようとしているべきですか (黙示録 14:7, 10, 11; 15:1)。

「悪人は信心の形式に反対したり、人々に担うべき十字架を提示しない人気のある牧会を拒んだりはしない。律法の違反者を震えさせたり、あるいは心と良心に来たるべき裁きの恐ろしい現実で圧迫するものが何もない宗教に対して、生来の心は深刻な反対をあげることはない。反対をあげさせ、生来の心を反逆へ導くのは御霊の現れと神の力である。魂を救う真理は神からもたらされるばかりでなく、他の人々へ真理が伝達されるときに聖霊が伴わなければならない。さもなければ、それは反対する感化力の前に力なく倒れてしまう。」(福音宣伝者 (1892) 66)

- b. わたしたちはどのように多くの人々が、ロトの経験のように、来たるべき裁きをかうじて逃れるだけであることがわかりますか (創世記 19:17; ルカ 17:28-32; ペテロ第一 4:17, 18)。

「神の裁きがまもなく地に注がれるようになる。『のがれて、自分の命を救いなさい』というのが神の御使たちの警告である (創世記 19:17)。他の声が次のように言うのが聞こえる。『興奮してはいけない。特に警戒するような理由はない』。天が速やかな破滅が違反者たちに臨もうとしていることを宣言する一方で、シオンで安穩としている人々は『平和だ無事だ』と叫ぶのである。……古い世界の破滅のときも、またソドムとゴモラが火で焼き尽くされたときも同様であった。」(教会への証 5 卷 233)

個人的な復習問題

1. わたしたちはソドムの経験から、どの警告が与えられますか。
2. 何がすべてのクリスチャンの重荷となるべきですか。
3. 信仰の祈りがどのように魂を救うことができるか説明しなさい。
4. どの態度が、かつてなかったほど必要とされていますか。
5. なぜ最後の警告が緊急に与えられる必要があるのか説明しなさい。

アブラハムの嗣業

「〔アブラハム〕は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。」（ヘブル 11:10）

「わたしたちはこの世では寄留者であり、旅人にすぎない。わたしたちはアブラハムが待ち望んでいた都を求めている。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。」（天国で 112）

推奨文献： 教会への証 1 巻 346-353;
信仰によってわたしは生きる 304

日曜日 3月26日

1. 嗣業の約束

- a. 神はアブラハムとその子孫にどの嗣業を約束されましたか（創世記 17:7, 8; 歴代志上 16:15-18; ローマ 4:13）。

「アブラハムと彼の子孫への賜物は、カナンの地だけでなく、地球全体を含むものであった。……アブラハムに対してなされた約束は、キリストによって成就されることを、聖書は明らかにしている。」（人類のあけぼの上巻 179）

- b. 地上のカナンの地は何の象徴でしたか（ヘブル 11:8-10, 13-16; 黙示録 21:1-3）。

「神の声が聞こえ、約束の国をすぐ所有することを期待しないように〔アブラハムに〕命じ、また、カナンに定住する前に、彼の子孫は苦難に会うことを予告した。ここで、キリストの死という大きな犠牲と栄光の来臨による贖罪の計画が彼に示された。アブラハムは、また、地上がふたたびエデンの美しさに回復されて、永遠の所有として彼に与えられ、約束がついに完全に成就することを示された。」（同上 138）

2. 王国の相続人

- a. 約束の御国の唯一の眞の相続人はだれですか (マタイ 21:33-39; ガラテヤ 3:16; ヘブル 1:1, 2)。

「キリストは御父の定められた『万物の相続者』であり、またこのお方はキリストによって『もろもろの世界を造られた』。このお方は『神の栄光の輝きであり、神の本質の眞の姿であ』られる。そしてこのお方が、『その力ある言葉をもって万物を保っておられる』 (ヘブル 1:2, 3)。このお方は神聖な卓越さと偉大さを所有しておられた。御父はこのお方のうちにあらゆる徳が満ちみちて宿っていることを喜ばれた。そしてキリストは『神と等しくあることを固守すべき事とは思わ』れなかった (ピリピ 2:6)。イエスは人が罪と悲惨さのうちに失われている間は、神と等しくあることを望ましいことだとみなされず、光の御座及びご自分が御父と共に持つておられた栄光を取り換えられた。このお方は神性に人性をまとい天から地へ来られた。そして墮落した人類の保証人として呪いに耐えられたのである。このお方はそうするように強いられただけではなかった。そうではなく、このお方は人の不法の結果を負うことを選ばれた。それによって人が永遠の死をまぬかれることができるためであった。」(ザインズ・オブ・タイムズ 1893年2月20日)

- b. わたしたちはこのお方の嗣業にあずかることによって、どのようにキリストと共同の相続人になることができますか (ローマ 4:13-17; ガラテヤ 3:26-29)。

「キリストの恵み、すなわち自分たちを神の相続人、及びイエスと共同の相続人とした恵みを感謝してきた人々だけが自分たちの贖い主のみかたちを帯びて墓から出てくるであろう。」(ヘレクテッド・メッセージ 1巻 259)

「わたしたちがキリストと共同の相続人になるという約束の成就是、わたしたちが自発的に自己を否定することにかかっている。」(上を仰いで 235)

- c. 神のすべての約束がなされているイエス・キリストを信じる自分の信仰をわたしたちが宣言するとき、このお方はわたしたちを何と呼ばれますか (ローマ 8:14-17; ガラテヤ 4:4-7)。

「永遠の宝がイエス・キリストの保管にゆだねられてきた。それをだれでもこのお方が望む人に与えるためである。しかし、あまりに多くの人々が、このお方を信じる信仰を通して自分たちに差し出されている尊い恵みをすぐに見失ってしまうとは、なんと悲しいことであろう。このお方は天の宝を、ご自分を信じ、ご自分を眺め、ご自分のうちに宿る人々に与えてくださるのである。」(ヘレクテッド・メッセージ 1巻 138)

3. 永遠の御国

- a. 神のむすこ娘として、信仰を通して、どの種類の王国がわたしたちに約束されていますか (ダニエル 2:44; 7:27; ペテロ第二 1:11)。

「ご自分の民のための主のご目的はいつも同じであった。このお方は人の子らに永遠の嗣業という富を授けたいと願っておられる。このお方の王国は永遠の王国である。いと高きお方の従順な臣民になることを選ぶ人々がついに栄光の御国に救われるとき、人類に対する神のご目的が成就するのである。」(ビュー・アンド・ヘラルド 1907年12月26日)

- b. この永遠の王国をどれくらいの間、信徒たちは楽しめますか (テトス 3:7; ヨハネ第一 5:11-13)。

「この生涯は訓練学校であり、そこでわたしたちは変えられ、精錬され、神の御国での聖徒たちの社会にふさわしいものとされなければならない。わたしたちは彼らと永遠の年月を通じて交わることになるのである。」(ハイヴル・エコー 1895年7月29日)

- c. 神がすべての人にこの嗣業にあずかってほしいと願っておられることが、どのようにわかりますか (ペテロ第二 3:9; エゼキエル 18:32; ヨハネ 3:16)。

「主はどの魂も滅ぶことを望まれない。このお方の憐れみは数知れず、このお方は贖うためにご自身の命を与えてご自分が買われた所有物をサタンの誘惑の餌食となるがままになさることはない。全天がイエスを自分の現在の個人的な救い主として信じるすべての人に与えられているのである。」(上を仰いで 150)

「世の光はわたしたちの上に輝いている。それはわたしたちが神聖な光線を吸収して、この光が他の人々に良い行いのうちに輝かせるためであり、こうして多くの魂が天にいますわたしたちの御父に栄光を帰すよう導かれるのである。このお方は長く忍ばれるお方であり、だれも滅びず、かえってすべての人が悔い改めることを望んでおられる。そして非常に多くの人々がイエスの憐れみと比類のない愛を拒むことは、このお方のみ心を悲しませる。」(原稿リ-ス 2巻 237, 238)

4. わたしたちの確信を持ち続ける

- a. わたしたちは何を持ち続けるように訓告されていますか（ヘブル 3:14; 10:23, 35, 36; 黙示録 3:11）。

「だれかの状態を永遠に定める決心は、一瞬のうちになされるかもしれない。……しかし、誘惑や無分別に屈した一瞬が投げ捨てたものを回復するためには一生の働きを要するであろうことを覚えていなさい。……

天を勝ち取る人々は、自分たちの最も高尚な努力を働かせ、長い忍耐を尽くして労する。それによって彼らが骨折りの実を刈り取ることができるためである。誘惑のテストに耐え、キリストの愛のために世とその誉と称賛とを放棄することによって良心を保ち、こうしてこのお方を人々の前に告白し、忍耐を尽くしてこのお方が自分を御父と聖天使たちの前で告白してくださることを待ってきた人々にパラダイスの門を広く上げる手がある。」（今日のわたしの生涯 322）

- b. アブラハムの字義的な子らの大部分が、どのように嗣業を拒まれるようになるかを説明しなさい（民数記 13:25-33; 14:1; ヘブル 3:18, 19; ユダ 5）。

「四十年の間、不信、つぶやき、そして反逆が昔のイスラエルをカナン之地から締め出したのであった。同じ罪が現代のイスラエルが天のカナンに入ることを遅らせてきた。いずれの場合も神の約束に責任はない。主の民だと公言する者たちの間の不信、世俗、献身しない態度、争いが、わたしたちをこの罪と悲しみの世にこれほど長い間引き留めてきたのである。」（伝道 696）

- c. わたしたちの生涯において、第一の優先事項は何であるべきですか（マタイ 6:33; ルカ 12:31-34; コロサイ 3:1, 2）。

「この世から目を離して永遠の世界を見なさい。神が価値を置き、キリストがあなたに得させるためにご自分の尊い命を与えてくださったこれらの事物を得るために、あなたの最も熱心な努力を払いなさい。このお方の犠牲は、天の商取引の門をあなたに対して広く開いてきた。魂を真理の知識に勝ち取ることににおいてこのお方が望んでおられる働きを、このお方からゆだねられた資本をもってなすことにより、あなたの宝を神のみ座のわきへ蓄えなさい。」（管理者への勧告 225, 226）

5. 神の一致した御国

- a. アブラハムが神を賛美しながらその嗣業に入るときに、アブラハムの子らのうち、何人が彼と共にいますか（ヘブル 11:39, 40; テサロニケ第一 4:16, 17; イザヤ 66:23）。

「わたしたちは、他の人々が自分自身のような失望を通じて苦闘し、わたしたちもそうであったように誘惑に陥って倒れ、それでなお、自分たちの立場を回復し、神から祝福されたのを見るとき、絶望する必要はない。靈感の言葉は過ちに陥っている魂を慰め、励ます。父祖や使徒たちも人間の弱さの下にあったが、信仰を通して賞賛され、主の力のうちに自分たちの戦いをたたかい、輝かしく勝利したのである。同様にわたしたちも贖罪の犠牲の徳に信頼し、イエスのみ名によって勝利者となることができるように。」（教会への証 4 巻 15）

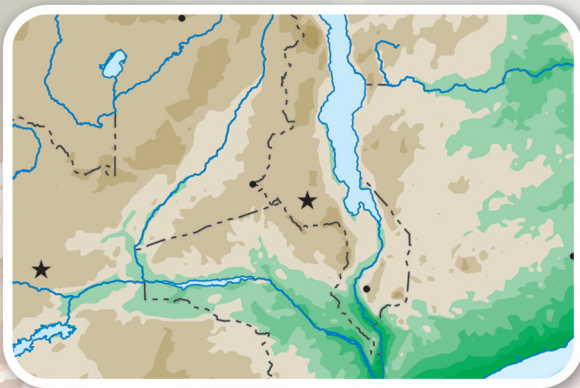
- b. すべての救われた信徒は、イエス・キリストを救い主として顔と顔を合わせてみると、何をしますか（ピリピ 2:9-11; 黙示録 7:9, 10）。そのとき、イエスは何をなさいますか（コリント第一 15:24-28）。

「〔あがなわれた者たち〕は、全員が一つとなつて、人間に神のような永遠のいのちを与えるために、ご自分のいのちを犠牲にされたかたを讃美する。闘争は終わる。艱難も争いも終わる。あがなわれた者たちが、ほふられて、勝利の征服者として再び生き返られた小羊こそすばらしい、という喜びの歌をうたいだすと、勝利の歌が全天に満ちる。」（患難から栄光へ下巻 311）

個人的な復習問題

1. どのような種類の地をアブラハムは待ち望んでいましたか。
2. わたしたちはどのようにのみ、アブラハムの嗣業にあずかる者となることが出来ますか。
3. この世において、すべての人に対する神の願いは何ですか。
4. わたしたちはどのように終わりまで自分たちの確信を持続することが出来ますか。
5. どのような種類の歌を、あがなわれた人々は天の聖歌隊で共に歌いますか。

第一安息日献金

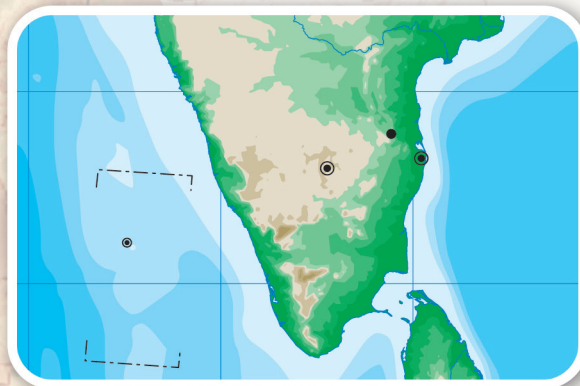


1月7日

マラウィの本部と礼拝堂のために
(4 ページ参照)

2月4日

世界災害と福祉のために
(25 ページ参照)



3月4日

インド、ベンガルルにおける礼拝堂のために
(46 ページ参照)